



2025年7月

GIS の利用を拡大

ArcGIS Online のヒントとベストプラクティス



コンテンツ

はじめに

第 1 章: ビジョン、目標、ガバナンスの確立

第 2 章: 最適なコンテンツ ページの作成

第 3 章: ブランドの構築

第 4 章: メンバーのタイプ、ロール、権限

第 5 章: 組織設定の微調整

第 6 章: グループの使用

第 7 章: メンバーのベスト プラクティス

第 8 章: ArcGIS Living Atlas of the World

第 9 章: データを情報に変換

第 10 章: ホスト フィーチャ レイヤーの操作

第 11 章: 解析の実行

第 12 章: マップとシーンからのアプリの作成

第 13 章: 前進を継続

はじめに

このガイドでは、ベスト プラクティスを用いて ArcGIS Online を短時間で構成および実装するためのフレームワークについて段階を追って説明します。クラウド GIS を実装してインテリジェントなマップ、アプリ、解析を提供する方法、およびそれらのアイテムを組織全体および組織外の重要なユーザーと共有する方法について説明します。データを実用的な情報に変換してワークフローを効率化する方法について説明します。

ArcGIS Online をすでに実装している人も、実装を検討し始めたばかりの人も、クラウドを使用して最大のメリットと最高のエクスペリエンスを得る方法を調べることができます。

このガイドでは次のトピックについて説明します。

- ガバナンス
- コミュニティと連携するためのコンテンツ ページの作成
- ブランドの構築
- 成功に向けた準備
- 組織を微調整するにあたってのヒント
- グループ
- メンバーのベストプラクティス
- マップの作成
- フィーチャ レイヤー
- ArcGIS Online 解析
- 情報プロダクト - アプリなど
- 組織の前進を継続

本書の最新バージョンは go.esri.com/extend からアクセスしてください。

第 1 章: ビジョン、目標、ガバナンスの確立

成功へのロード マップと成功が意味するものについて理解します。

組織が成功するには、単独で取り組むのではなく、チームワークや合意形成、そしてコラボレーションが必要です。ArcGIS 組織の改善を検討する際には、計画を立て、チームと会議することをおすすめします。まずは、次の質問をしてください。

- 推進者としての役割を果たし、組織を確立して前進させるためのビジョンとリーダーシップを示すのは誰か？
- ArcGIS Online を利用する組織内のその他の関係者は誰か？
- ビジョン、ミッション、目的は何か？
- サポートするワークフローはどのようなものか？
- 解決すべき問題は何か？
- 組織の能力をどのようにして強化するか？
- 成果物は何か？
- 成功の尺度は何か？

これらの質問への回答は意思決定や組織を構成する際の指針となるため、これらの質問について考えることが重要です。

関係者から成るガバナンス委員会を設けることを検討します。ガバナンス委員会は組織が成長および発展するにしたいが定期的に開催する必要があります。

組織全体に導入する前に手法とワークフローを評価およびテストして、成功パターンを実装します。

ユーザー プロフィールには何が含まれるべきか、マップとレイヤーを作成して公開する方法、必要なアイテムの詳細やその他のドキュメントなど、手順とガイドラインを確立して文書化します。

柔軟性を持って、順応し、発展させます。組織がサポートするメンバー、タスク、ワークフローの数が増えるにしたいが、調整を行っていく必要があります。

組織のサイトにおける成功と新規事案を伝えることで、他のメンバーが組織の価値を理解しやすくなり、組織に積極的に参加するようになります。組織内のコミュニケーション ツールを使用して、組織のメンバーに変更内容や更新内容を知らせます。

組織の新たな賛同者を探して助言します。初期のリーダーが組織の目的に取り組んでいる場合がありますが、そのリーダーたちが去ったとき、他のリーダーが、混乱もなくビジョンと目標を維持する準備ができていようにする必要があります。

管理

管理者は組織を掌握し、組織を構成してメンバーとコンテンツを管理する権限を持ちます。組織には少なくとも 1 人の管理者が必要ですが、組織内で割り当てることができる管理者ロールの数に制限はありません。組織には 2 人以上の管理者を設けることをおすすめします。

その組織を主として担当する 1 人以上の管理者を選定します。大きな組織の場合、カスタム ロールを使用して、特定の管理タスクを他のメンバーに割り当てることができます。詳細については、「[第 4 章: カスタム ロール](#)」をご参照ください。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 組織のビジョンと目標を管理する管理者または管理者のグループを設けます。
- 1 人以上の組織管理者を指名します。カスタム ロールを使用して、管理タスクを複数のメンバーに分担させます。
- さまざまな手法やシナリオを組織全体に導入する前に、ひな形の作成と評価を行います。
- 管理部門、グループの所有者、メンバー向けの手順とガイドラインを確立します。
- 組織の発展にしたがって、柔軟性を持って、順応し、発展させます。
- 関係者間では特に、早い段階で頻繁にコミュニケーションを取ります。
- 新しい管理者とコンテンツ マネージャーを探して助言します。

ベストプラクティスのガイドラインの確立

組織のメンバーとコンテンツが増大する前の早い段階で、ベストプラクティスの概要をまとめたガイドラインを確立することをおすすめします。これらのガイドラインでは、メンバープロフィールをどのように表示するか、適切なアイテムのドキュメント(タグやカテゴリーを含む)、優先するアプリとベースマップについて扱うことができます。

この情報はドキュメントに保存することができ、時々レビューして更新する必要があります。ドキュメントを組織に追加して、メンバーが参照できるように内部で共有することができます。ドキュメントは、たとえば、メンバーが組織のホームページまたはギャラリーにサインインした後にのみ表示される場所で共有できます。

さらに、説明とドキュメントのベストプラクティスを示すテンプレートアイテムとグループを作成できます。これには、パブリックに共有されるアイテムに加える必要がある、任意の標準のテキストや利用条件を含めることもできます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ArcGIS Online 実装ガイド](#) (PDF)
- [管理の基本操作](#) (ヘルプ)
- [ユーザータイプ、ロール、権限](#) (ヘルプ)
- [組織サイトの管理](#) (チュートリアル)
- [ArcGIS 組織サイトの設定](#) (チュートリアル)

第 2 章: コンテンツ ページの作成

コミュニティと連携するために魅力的なコンテンツ ページを作成します。

組織のメンバーや訪問者が最初に目にするのが組織のホーム ページです。ホーム ページの外観とコンテンツによって第一印象が決まります。ホーム ページは、GIS 組織だけでなく、訪問者がそこで見つけた情報の品質と正確さについての第一印象を与えます。

人々は書籍をそのカバーで評価します。そのため、組織内だけで公開するか一般の人々に公開するかに関係なく、専門性があり、見た目が美しく、きちんと整理されたホーム ページを作成することが重要です。

次のセクションの例に示すサイトは魅力的であり、専門性があり、信頼できるコンテンツによって裏付けされているという印象を与えます。

組織のホーム ページ

ホーム ページは、組織の Web サイトのランディング ページであり、ユーザー コミュニティへの入口としての役割を果たします。ホーム ページでは、組織のメンバーや (外部からのアクセスを許可している場合は) 一般ユーザーにリソースやコンテンツを提供しています。

組織のブランディングとミッションを反映し、コミュニティにとって最も重要なマップ、シーン、アプリ、レイヤーを表示する、モダンで魅力的な外観のホームページを構成することができます。

見た目の美しさも重要ですが、外観だけで成功が決まるわけではありません。サイトがどのように機能し、訪問者に何を提供するかが重要です。

匿名アクセス状態とサインインした状態での、注目のコンテンツのギャラリーや、ページ上部のギャラリー タブとグループ タブを開いたときの表示に注意を払います。訪問者が、一般公開されたホームページで見つけたコンテンツを開く際にサイン インを求められるような障害を回避します。

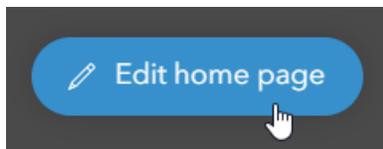
自社の ArcGIS Hub サイト、ArcGIS Open Data サイト、市の Web サイト、学習リソースなどのリンクやドキュメントを追加することができます。

共有機能を使用することで、訪問者に表示されるアイテムを制御することができます。一般の訪問者にはパブリックに共有されているアイテムが表示され、メンバーにはサイン インした後でのみ、組織またはグループだけで共有されているアイテムが表示されます。

ホーム ページ エディター

ホーム ページ エディターを使用することで、どのデバイスでも動作する、セキュリティーで保護されたホーム ページを作成できます。ホーム ページ エディターに組み込まれている柔軟性の高い一連のコンポーネントとオプションを使用して、サイトへのユニークで人の心を引き付けるエントリー ポイントを作成できます。ホーム ページ エディターを使用してホーム ページを構成すると、デザインした内容のライブプレビューが表示され、目的の外観と機能を実現するのに役立ちます。

ホーム ページの編集権限がある場合、サイン インするとホーム ページ上に編集ボタンが表示されます。



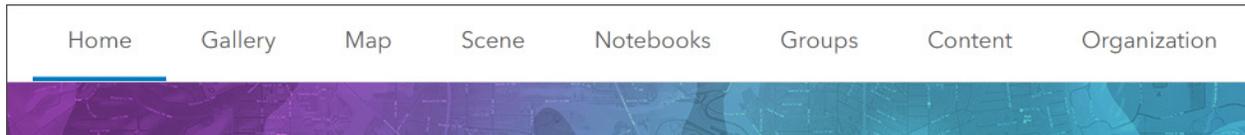
ホーム ページ エディターを使用して、ヘッダー、コンテンツ ブロック、フッターをデザインし、全体的なスタイルと雰囲気に適した色とタイポグラフィを選択します。

ホーム ページ エディターを使用して、次のような性質を持つホーム ページを作成することができます。

- レスポンシブでどのデバイスでも動作する
- アクセスしやすく、操作を阻む障壁がない
- セキュリティーで保護され、悪意のある攻撃を受ける余地がない

ホームページの表示設定

ホームページを構成するときに表示設定を使用して、主要な Web サイト ページへのナビゲーションバー アクセス (タブ表示) を指定できます。組織のホームページの上部には、**ギャラリー** タブ、**マップ** タブ、**シーン** タブ、**グループ** タブが表示されます。

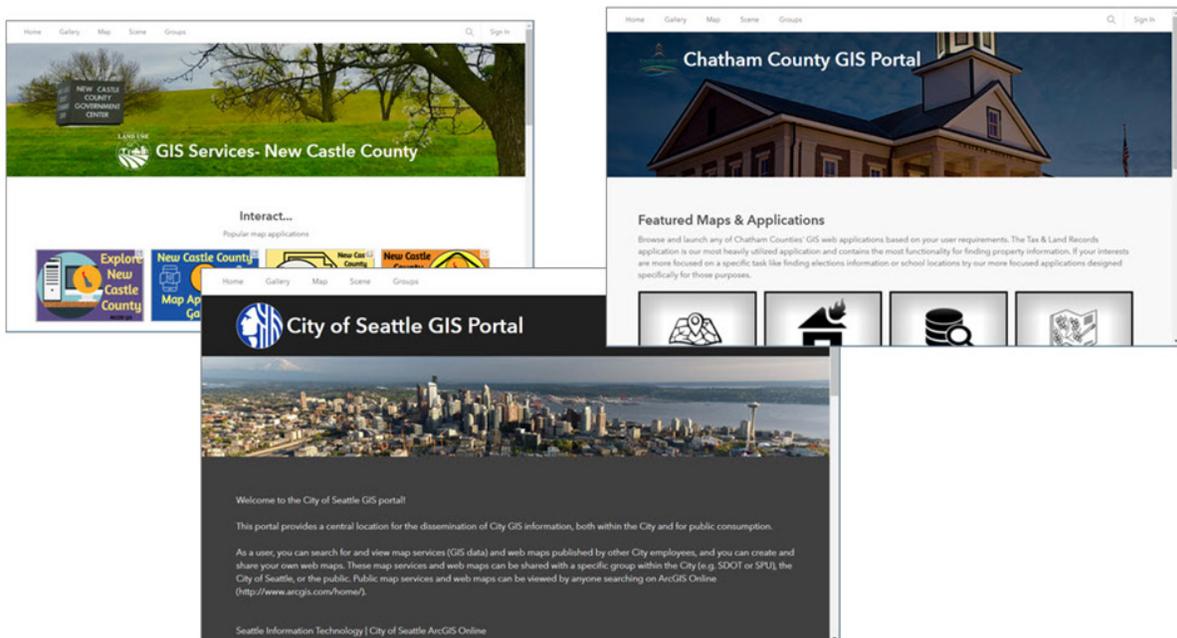


ホーム タブはすべての人に常に表示され、**コンテンツ** タブはメンバーに常に表示されます。**組織** タブと**ノートブック** タブが表示されるかどうかは、メンバー ロールによって決まります。

管理者はこれらの設定によって、訪問者によりカスタマイズされたエクスペリエンスを提供できます。たとえば、**グループ** タブを組織のメンバーのみに表示することも、サイトを訪問したすべての人に表示することもできます。詳細については、[ナビゲーションバー](#)または[組織のナビゲーションバーの整理整頓](#)をご参照ください。

ホームページの例

下に示すホームページは見た目が魅力的で、専門性があり、コンテンツが適正に管理されているという印象を受けます。



以下に示す組織のホームを探索して、好きな点と嫌いな点を確認します。注目のコンテンツをクリックしたとき、リンクをクリックしたとき、およびギャラリー タブとグループ タブを開いたときに表示されるコンテンツについて考えます。表示されたコンテンツを気に入りましたか？役に立ちましたか？工夫を凝らして作られて管理されていたか？これらをどのように変更または改善すればよいですか？

魅力的に実装された一連の組織のライブ ホーム ページを以下に示します。これらのサイトはライブであるため、いつでも変更される可能性があることにご注意ください。

- [Africa GeoPortal](#)
- [Faribault County, Minnesota](#)
- [Chatham County GIS Portal](#)
- [North Carolina Department of Transportation \(NCDOT\)](#)
- [New Jersey Department of Environmental Protection \(NJDEP\)](#)

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 匿名の訪問者としてホームページを探索し、サインインした後に、メンバーと訪問者がそのページでどのような体験をするかを理解します。
- 優れたコンテンツが目立つように**ギャラリー** タブと**グループ** タブを構成します。
- ホームページのコンテンツを時々レビューして、最新であることを確認します。
- 訪問者も組織のメンバーも引き付ける、定期的に更新されるリソースのコレクションを追加することを検討します。
- ホームページをドキュメント アイテムとして追加することで、ArcGIS Online 内で見つけやすくなります。
- 固有のグループを使用してホームページのコンテンツを整理し、ホームページのブロックに表示します。
- Web サイトを見つけやすくし、ArcGIS Online 内でパブリックに共有されているアイテムに、信頼できるコンテンツのバッジを表示するために、[組織の確認](#)を検討します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

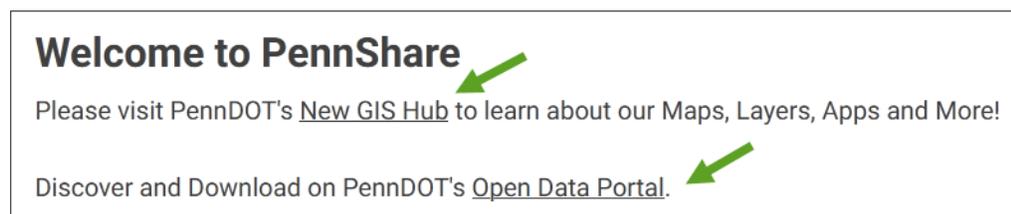
- [組織サイト向けに最高のホーム ページを作成する \(ブログ\)](#)
- [ホーム ページのナビゲーションバーとギャラリーの構成 \(ブログ\)](#)
- [組織のホーム ページを作成するためのベスト プラクティス \(ヘルプ\)](#)
- [ホーム ページの構成 \(ヘルプ\)](#)
- [ギャラリーの構成 \(ヘルプ\)](#)
- [ArcGIS 組織サイトの設定 \(チュートリアル\)](#)

その他のコンテンツ ページ

ホーム ページは組織のプライマリー コンテンツ ページであり、一般ユーザーやコミュニティのニーズに対応できますが、対象読者に焦点を合わせたその他のコンテンツ ページを作成することもできます。一般的なオプションには、ArcGIS Open Data を含む ArcGIS Hub があります。多くの組織が、それぞれのホーム ページに加えて、1 つ以上の Hub を実装しています。

それ以外の代替のコンテンツ ページは、ArcGIS Experience Builder か、またはグループベースのギャラリー アプリと ArcGIS StoryMaps コレクションを使用して実装できます。これらは、多くの場合、特定のタイプのコンテンツに焦点を当てた小規模のコンテンツ ページです。また、組織内部のリソースやホーム ページまたは Hub のコンポーネントとして使用することもできます。

複数のコンテンツ ページを実装する場合、ページを相互にリンクすることで、ページを見つけやすくし、ページ間で移動しやすくすることをおすすめします。たとえば、ホーム ページから ArcGIS Hub サイトへのリンクや ArcGIS Hub サイトからホーム ページへのリンクを含めます。



ArcGIS Hub

ArcGIS Hub を使用すると、コンテンツを見つけて探索できる空間対応の Web サイトを作成できます。ArcGIS Hub では、データ、マップ、アプリの共有、関係者とのコラボレーション、コミュニティとの連携が可能です。

ArcGIS Hub は、Premium と Basic バージョンで提供されています。各 ArcGIS Online 組織には Hub Basic が含まれており、Hub Basic を使用して対象読者を引き付ける、的を絞ったページを作成することができます。詳細については、「[ArcGIS Hub Basic のクイックスタートガイド](#)」(ブログ)をご参照ください。

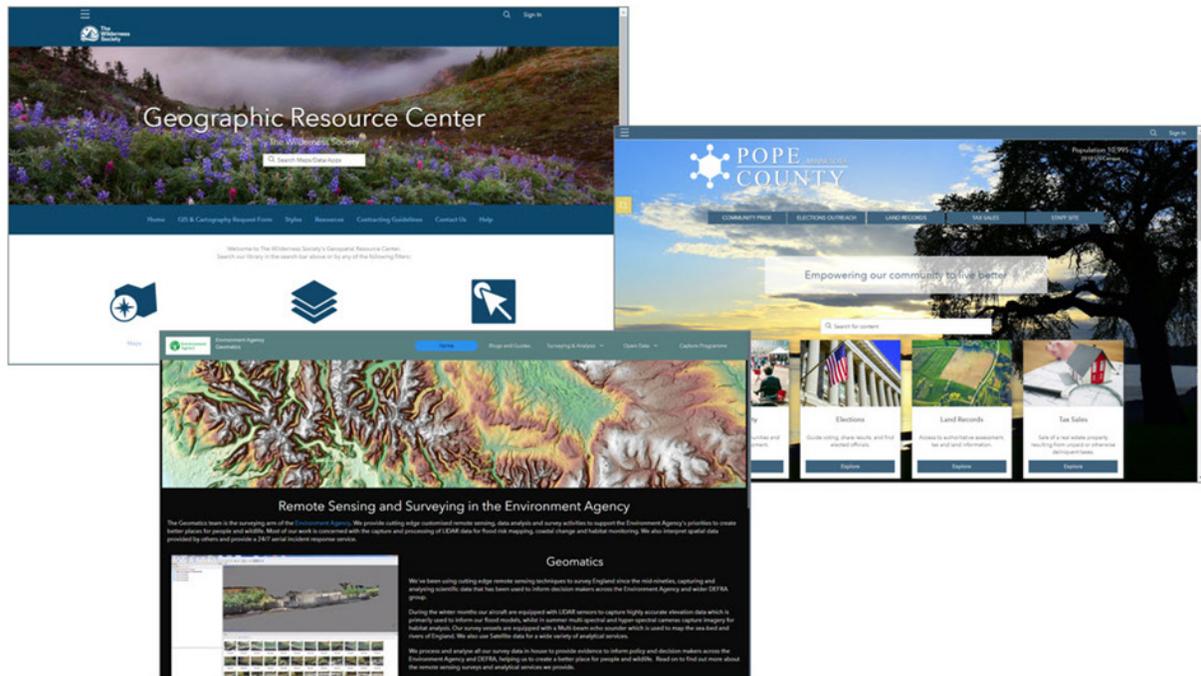
Hub Premium では、コミュニティとの連携およびコラボレーションのための追加の機能が提供されます。これらの機能には、イニシアティブの作成と管理、構成要員とのプライベート共有とコミュニケーションが含まれます。

Hub Basic と Hub Premium のどちらを使用した場合も、さまざまな形式の組織のデータ (各種形式のデータのダウンロード、ライブ マップ、API 使用など) に広範囲にアクセスできる Open Data サイトを作成できます。

Hub Basic と Hub Premium の比較の詳細については、「[ArcGIS Hub の概要](#)」(ヘルプ) および「[ArcGIS Hub の概要](#)」(Web サイト)をご参照ください。

ArcGIS Hub の例

Hub のコンテンツ ページの例を以下に示します。組織のホームと同様に、Hub も、見た目の美しさと使いやすさの両方を考慮に入れて設計する必要があります。



次のリンク先には、魅力的に実装された一連の Hub が表示されます。これらのサイトは稼働中であるため、随時変更される可能性があることにご注意ください。

- [Delaware.gov FirstMap](#)
- [Johns Creek DataHub](#)
- [KyGovMaps Open Data Portal](#)
- [California State Geoportal](#)

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 対象の閲覧者について理解し、提供したい情報に的を絞ります。その後、閲覧者に最適なコンテンツ ページを決定します。
- 複数のコンテンツ ページを実装するようにします。

- コンテンツ ページを相互にリンクして、外観と操作性を統一されたものにします。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ArcGIS Hub の概要](#) (ヘルプ)
- [ArcGIS Hub Basic を試してみる](#) (チュートリアル)
- [ArcGIS Hub Premium の基本操作](#) (チュートリアル)
- [ArcGIS Hub ギャラリー](#) (Web サイト)

第 3 章: ブランドの構築

わかりやすいアイデンティティーを確立します。

ブランドとは、あなた自身とあなたが表現するものを識別可能なシンボルあるいは描写のことです。ブランドを通してあなたの組織やあなたの仕事がただちに認識されます。

ブランドには次の特性があります:

- サムネイルやユーザー プロフィールなどですぐに識別できる、ユニークなデザイン、シンボル、単語、またはこれらの組み合わせ。
- コンテンツの識別 (この場合はマップ、アプリ、レイヤー) と、他社のコンテンツとの差異。
- 消費者のマインドにおいて、ブランドは一定レベルの信頼性、品質、真実性、満足度に関連付けられる。

組織のブランディング

関心のあるアイテムが 2 つあり、一方は定評のある会社の製品、もう一方は知らない会社の製品である場合、どちらを先に使おうと思いますか？

組織のブランディングはさまざまな形式をとることができます。たとえば、ユタ州に住んでいる人は AGRC (Utah Automated Geographic Reference Center) には州規模の信頼できる基礎的コンテンツが集約されていることを知っているかもしれませんが、ユタ州の信頼できるコンテンツを必要としているだけでそこにいない人は、そのことを知りません。それでは、検索結果で見つけた情報をどのようにして判断できるでしょうか？

最初に探することができるものの 1 つは、信頼済みバッジです。[信頼できるパブリック コンテンツのバッジ](#)セクションでは、パブリックに共有された組織のマップにバッジを表示する方法について説明しています。

それ以外では、タイトル、サマリー、外観 (サムネイル)、そして所有者のプロフィールによって検索結果が判断されます。他の知識がない場合、これらはユーザーが信頼できるコンテンツにたどり着くための手掛かりとなります。

以下の例では、これらのエレメントを効果的に整理することで、関連付けられたコンテンツが専門的に準備され、高品質で、信頼できることの確実性を強めています。

Utah Schools PreK to 12

This dataset contains point locations for preschool and K-12 schools in the state of Utah -- updated for the 2019-2020 school year. Higher education and adult vocational training are not included in the dataset.

 Feature layer | Item updated: Jul 1, 2025 |  Authoritative

 Utah Automated Geographic Reference Center (AGRC) | [Open in Map Viewer](#) ...



ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- ブランドを構築する際には、視覚的エレメントを強調し、視覚的に一貫したものにします。
- アイテムを文書化する際の標準の命名規則またはメタデータを設定します。
- 公開するデータが自社の基準を確実に満たすようにするためのワークフローとガバナンスを確立します。
- 価値を明示します。ベストプラクティス (ポップアップ、スタイル、縮尺の依存性) を用いてコンテンツを巧みに作り上げます。

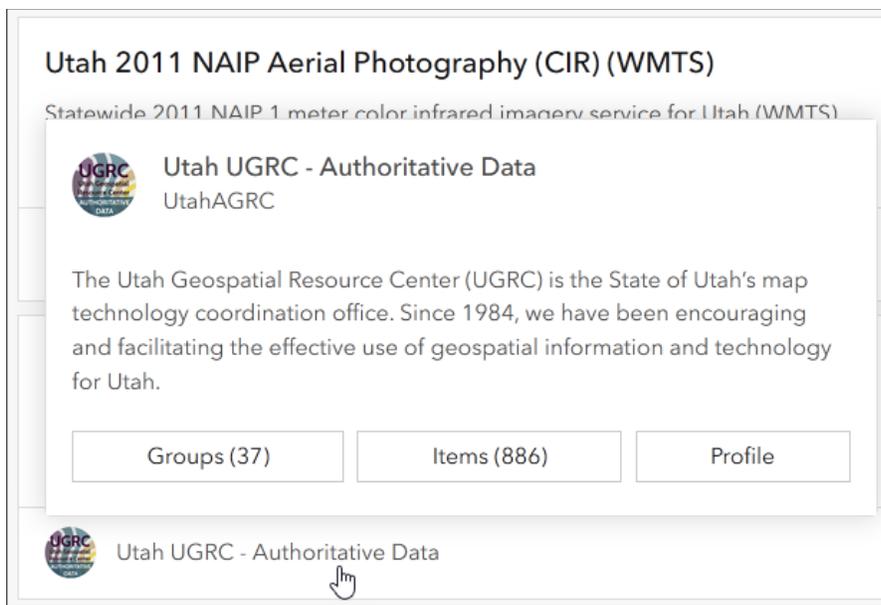
組織のプロフィール

多くの場合、組織のプロフィールは、他のユーザーがコンテンツを検索するときに最初に確認する情報です。以下に表示されているユタ州のコンテンツの検索結果では、ユタ州ソルトレイ郡の

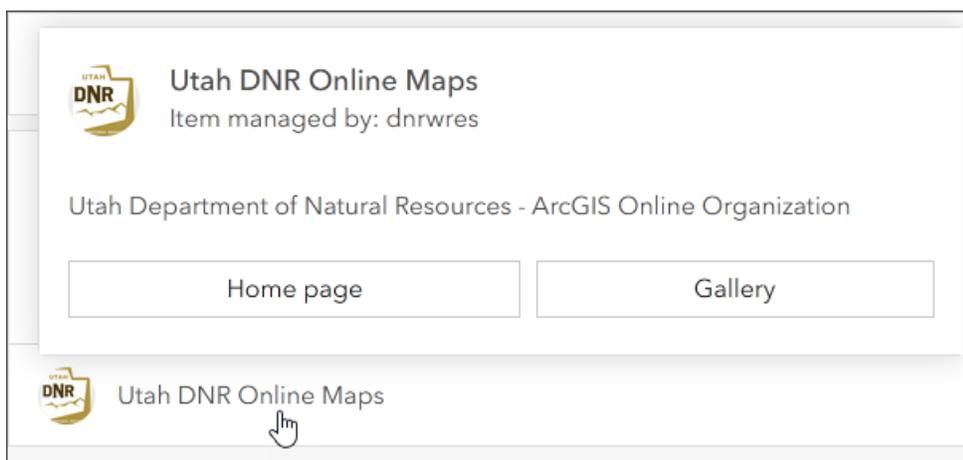
UGRC と AGRC (Utah Automated Geographic Reference) によって共有されているアイテムが返されています。

Parcels - Statewide Utah (AGRC) Statewide Utah Parcels from AGRC. Feature layer Item updated: May 1, 2019
 Salt Lake County
Utah 2014 NAIP Aerial Photography (RGB) (WMTS) Statewide 2014 NAIP 1 meter natural color imagery service for Utah (WMTS) WMTS Item updated: Sep 12, 2017
 Utah UGRC - Authoritative Data
Utah Address Points Base map (WMTS) A web mercator basemap cache of the Utah SGID Address Points feature class. WMTS Item updated: Aug 21, 2023 ✔ Authoritative
 Utah Automated Geographic Reference Center (AGRC)

プロフィール名をクリックして表示します。プロフィールは、組織が確認済みであるかどうか、またはプロフィールが、公開されたコンテンツの所有者であるかどうかに応じて 2 つの形式をとることができます。標準のプロフィールには説明が表示され、そのプロフィール アカウントが所有するグループとアイテムへのリンクが含まれます。



確認済み組織は、Esri による ID の確認をリクエストした組織です。組織の名前が所有者のプロフィールになり、プロフィールカードに、組織のホームページとギャラリーへのリンクが表示されます。



標準的なプロフィールの場合は、プロフィールから表示されるグループとアイテムが適正に管理され、ベスト プラクティスを示すようにします。確認済み組織のプロフィールの場合は、組織のホームページとギャラリーが適正に管理され、ベスト プラクティスを示すようにします。

ヒント: パブリック コンテンツ用に、組織を代表する独自のプロフィールを作成することを検討します。組織のメンバーによってマップ、アプリ、レイヤーが作成されたら、そのサムネイル、アイテム サマリー、アイテム説明が適切であるかが評価およびレビューされた後、管理者はその組織を表すプロフィールにこれらを転送できます。

以下に示す City_of_Minneapolis は Minneapolis GIS を代表するプロフィールです。このプロフィールの自己紹介情報にはこれが公式アカウントであることが明記され、連絡先情報が記載されています。プロフィールの画像とサムネイルのブランドが一致しています。これらすべてから、専門性があり、信頼できるコンテンツであることがわかります。

City Council Wards & Zip Codes App showing both Minneapolis City Council Wards and Zip Codes. Web Mapping Application Item updated: Feb 1, 2024	
 Minneapolis GIS View ...	
Council Wards & Zip Codes Web map showing City Council Ward boundaries with Zip Codes. Web Map Item updated: Feb 1, 2024	
 Minneapolis GIS Open in Map Viewer ...	

**Minneapolis GIS**
City_of_Minneapolis

This is the official City of Minneapolis account. Data published from this account is maintained by City of Minneapolis Employees and published by the City of Minneapolis GIS Team. The City of Minneapolis GIS office can be reached by phone at (612) 673-2431 or by email at gis@minneapolismn.gov.

効果的なプロフィールのその他の例を以下に示します。

Michigan DNR
MichiganDNR

Bio

Welcome to the official Michigan Department of Natural Resources ArcGIS Online page! The Michigan Department of Natural Resources is committed to the conservation, protection, management, use and enjoyment of the state's natural and cultural resources for current and future generations. For more information, go to www.michigan.gov/dnr. Follow us on Facebook for the latest DNR news, photos and answers to all of your questions or by following us on Twitter at www.twitter.com/michiganDNR or www.twitter.com/michiganDNR_UP

Item gallery
Top items based on relevance

- GIS Layer**
Michigan Department of Natural Resources
Counties with Labels
Feature Layer
- Open Data GIS Layer**
Michigan Department of Natural Resources
DNR Forest Inventory Open Data - Compartments
Feature Layer
- Open Data GIS Layer**
Michigan Department of Natural Resources
Michigan DNR Designated ORV Routes
Feature Layer
- Open Data GIS Layer**
Michigan Department of Natural Resources
Michigan DNR Designated MCCCT Trails
Feature Layer

プロフィールを表示すると、アイテムとグループの両方が見つけられ表示されています。つまり、公開される内容がベスト プラクティスと合致していることを確認する必要があります。このコレクションには一貫したブランドが表示されています。

デフォルトでは、プロフィール内のアイテムは、関連性に基づいて表示される上位アイテムです。表示されるアイテムをカスタマイズして、作成した優れたコンテンツを効果的に見せることをおすすめします。プロフィールを開いて、**アイテムのカスタマイズ**をクリックします。

ArcGIS Online Labs

Item gallery [Customize items](#) [Reset to default](#)

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- プロフィールの自己紹介情報はほどほどの大きさにしますが、組織に関する基本的な情報を記載するようにしてください。
- 必要に応じて、リンクと連絡先情報 (ソーシャルメディア アカウントを含む) を追加します。
- プロフィール (グループを含む) に関連付けられているすべてのアイテムが、ベストプラクティスを示しているようにします。
- プロフィールとともに表示されるアイテムをカスタマイズして、検索の関連性に基づいて見つかったアイテムをデフォルトにするのではなく、作成した優れたコンテンツを目立たせます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [プロフィールと設定の管理](#) (ヘルプ)
- [優れたプロフィールの作成](#) (ブログ)
- [プロフィールのアイテム ギャラリーのカスタマイズ](#) (ブログ)

サムネイル

年月を重ねるにつれて、良いサムネイルとはどのようなものであるかについての世間一般の通念は進化してきました。Esri はこれまで、組織のブランドが付いたサムネイルを作成するためのソリューション テンプレートを提供しており、これにはアイテム タイプと対象読者について説明するテキストが含まれていました。

今日では、文字数は少ないほど良く、読みにくい小さなロゴよりも認識しやすいグラフィックスが良いと考えられています。こうした慣例により、デバイスでどのように表示されても、ArcGIS Online で表示されているサムネイルはすべてのサイズで読みやすくなっています。

ヒント: アイテムを作成してから随分時間がたっている場合は、サムネイル エディターまたは選択しているグラフィックス プログラムを使用して新しいサムネイルを取り込みます。現在のサイズ規格に従って更新してください。推奨サイズは、以前は 200 x 133 ピクセルでしたが、現在は 600 x 400 ピクセルです。

ヒント: 他のソフトウェアを使用して最適な結果を得るには、サムネイルを PNG 形式で保存します。ArcGIS エコシステムでは、サムネイルはさまざまなサイズで表示され、PNG はすべてのサイズで最も鮮明で明確な画像を提供します。

組織のブランディングを使用するものを含め、その他の適切なサムネイルの例については、「[第 7 章: サムネイル](#)」をご参照ください。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 一般的に、文字数は少ないほどよいです。
- アイテム タイプは必ずしも表示する必要はありません。
- シンプルで目立つサムネイルの方が複雑で繊細なサムネイルより好まれます。
- 古いサムネイルを現在のサイズ (600 x 400 ピクセル) とスタイルの規格に従って更新します。
- 最良の結果を得るため、カスタム サムネイルを作成する際には JPEG や GIF ではなく必ず PNG を使用します。PNG は、ArcGIS Online エコシステム全体で最適な結果を提供します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [アイテムの表示と使用](#) (ヘルプ)
- [サムネイルのスタイルとブランドの作成](#) (ブログ)

コンテンツ ステータス

コンテンツを組織内で信頼済みまたは非推奨として指定することができます。このステータスは検索できるため、信頼済みとしてマークしたコンテンツを見つけやすくなります。信頼済みのステータスを割り当てると、検索順位も上がります。

信頼済みの指定は、次のステップを実行して、組織を登録するまでは (次のセクションで説明)、組織内でのみ表示され、外部には表示されません。

コンテンツを非推奨として指定すると、検索順位が最下位になります。アプリをサポートするためにコンテンツを残しておく必要があるが、代替りのコンテンツにユーザーを誘導したい場合に、この指定を行うことができます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 信頼済みまたは非推奨のいずれかに、アイテムを指定できます。
- 非推奨のアイテムに代わるものがある場合、アイテムの説明でそれらに言及します。
- メンバーはステータスによってアイテムをフィルターできます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

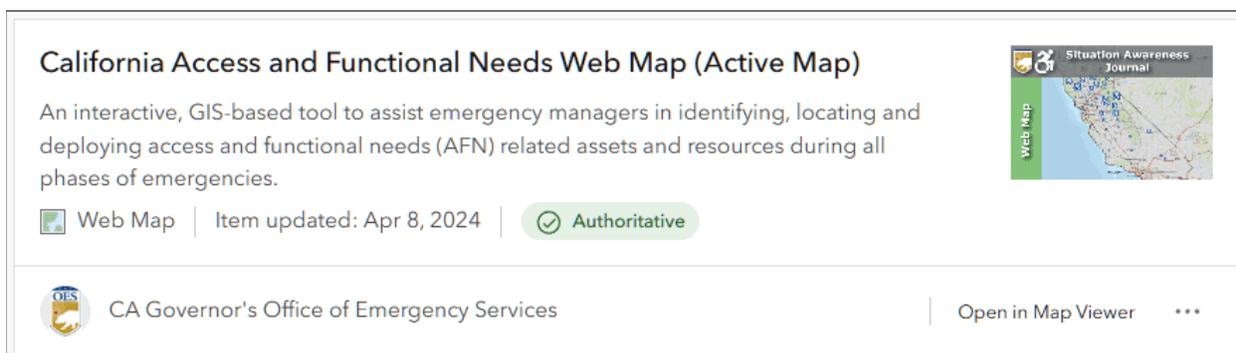
- [アイテムの信頼済みの指定 \(ヘルプ\)](#)
- [コンテンツの管理 \(ヘルプ\)](#)

信頼できるパブリック コンテンツのバッジ

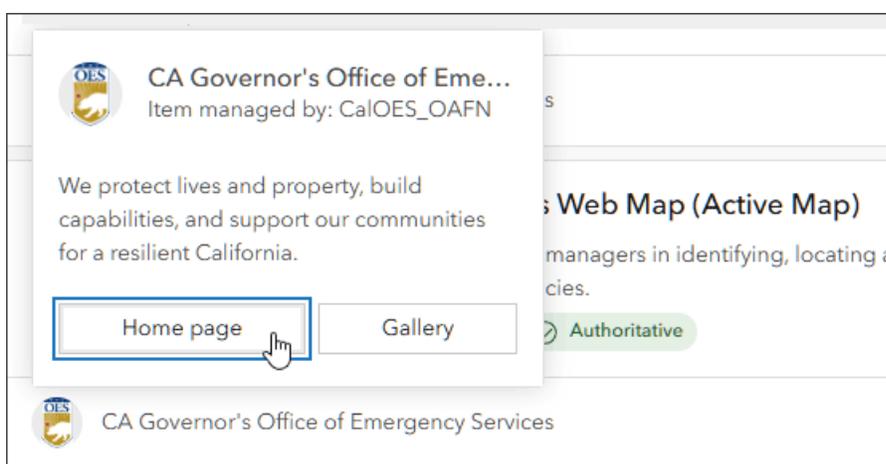
組織のパブリック アイテムに信頼済みバッジを表示するには、組織の確認のプロセスに進みます。**確認済み組織**は、Esri による ID の確認をリクエストした組織です。Esri により確認された組織は、共有しているパブリック アイテムを信頼済みとして指定できます。

パブリック アイテムを信頼済みアイテムとして指定すると、組織内外の他のユーザーが、信頼性の高い最新のコンテンツを見つけることができます。これらのアイテムは検索結果でも強調され、ステータスで信頼済みのフィルターが適用されたときに結果に表示されます。

信頼済みとして指定されたパブリック アイテムには信頼済みバッジが与えられ、組織名がアイテムの所有者として表示されます。



組織を確認した後は、アイテムの所有者リンクをクリックすると、組織に関する情報とそのギャラリーおよびホーム ページへのリンクを含む情報ウィンドウが表示されるようになります。最良の印象を与えるため、ギャラリーとホーム ページが構成され、適正に管理されていることを確認します。



組織を確認する管理設定は、組織の設定の、**一般** → **組織の確認**セクションにあります。詳細については、「[組織の確認](#)」(ヘルプ)をご参照ください。

Organization verification

Organizations verified by Esri can designate items they have shared with everyone (public) as authoritative. They are also boosted in search results and are returned when the Authoritative Status filter is applied. [Learn more about organization verification](#)

Verify organization

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 信頼済みアイテムのパブリックバッジを表示するには、組織を確認します。
- 組織のホームページとギャラリーがプロフィールカード上にリンクとして含まれるようになります。これらは、組織に対するユーザーの第一印象を決める可能性があるため、適正に管理する必要があります。
- 信頼できるコンテンツを見つけるには、検索ウィンドウの左下にあるステータス検索フィルターを使用します。



例

組織のブランディングとプロフィール

組織のブランディングとプロフィールの使用の良い例として、フィラデルフィア市の事例を紹介します。

フィラデルフィア市のすべてのコンテンツに自由の鐘のロゴと配色が使用されているため、ブランドを認識することができます。一貫したサムネイルは、情報が厳選され、信頼できるという印象を与えます。



プロフィールの自己紹介には連絡先情報が含まれています。



Maps Data
maps.phl.data

Bio

This is the primary account for data releases for the City of Philadelphia. If you require any assistance please contact: CityGeo Office of Innovation and Technology 1234 Market Street, 15th Floor Philadelphia PA 19107 e-mail: maps@phila.gov

^

確認済み組織

アイオワ州運輸局 (DOT) は、確認済みで、信頼できるパブリック コンテンツに信頼済みバッジが表示されている組織の一例です。信頼済みの指定によって、コンテンツの検索順位も一番上になります。

Snow Plow Truck Location AVL (Iowa DOT)

Active Iowa DOT Winter Operations Vehicles

 Feature layer | Item updated: Jul 1, 2020 | ✔ Authoritative


Iowa Department of Transportation

[Open in Map Viewer](#) ⋮



所有者のプロフィールをクリックします。自己紹介情報には所有者が説明されており、プロフィールカードにはホームページとギャラリーへのリンクが含まれています。



Iowa Department of Transportation

Item managed by: IowaDOT_SODA

The Iowa DOT is committed to providing the traveling public, lawmakers and partners with easy to understand information that demonstrates how we are managing the state's transportation infrastructure. We are working hard to maximize the performance of our existing structures, minimize costs and improve the public's experience when traveling in Iowa. We are in the process of developing tools to help our stakeholders clearly see how we are performing. We invite you to check back and take a look for yourself on how we are doing. [Open Data](#) [Featured Apps](#) [GIS Website](#) [GeoHub\(DOT Staff Only\)](#) [Training](#) [AGOL User Guide](#)

[Home page](#)

[Gallery](#)

第 4 章: メンバーのタイプ、ロール、権限

必要なツールと機能をメンバーに割り当てます。

組織は任務、責任、スキル、タスクが異なる多くのメンバーで構成されています。組織のメンバーが使用するアプリも、ArcGIS Pro から現場で使用されるアプリまでさまざまです。組織の個々のメンバーが持つアクセス権限とコンテンツやアプリの操作権限は、組織内でメンバーが持つタイプ、ロール、権限によって決まります。

ユーザー タイプ

ユーザー タイプによって、機能、アプリ、コンテンツへのロールベースでのアクセスが可能です。メンバーは、対話形式での共同作業やマッピング、分析など、基本的な機能を使用できるようになります。メンバーは、組織サイトに招待されるときに、ユーザー タイプが割り当てられます。

ユーザー タイプは以下から構成されます。

アイデンティティ - 一意のユーザー名およびパスワードにより、機能、アプリ、および他のユーザーが自分と共有するコンテンツにアクセスできます。

機能 - 機能とは、ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise でできること (たとえば、コンテンツの表示、作成、編集や解析の実行) です。

アプリ - ArcGIS Online および ArcGIS Enterprise と一緒に使用して、作業と責任をサポートできるソフトウェア。ArcGIS Instant Apps、ArcGIS Story Maps、ArcGIS Dashboards などがあります。

ユーザー タイプには次のものがあります。

Viewer - Viewer は、組織内で Viewer と共有されているアイテムを表示でき、さらに、ArcGIS Online 全体でパブリックに共有されているコンテンツも表示できます。このユーザー タイプは、安全な環境で組織の非公開コンテンツを表示する必要のある組織のメンバーに対して有益です。

Viewer は、コンテンツ (アプリを含む) の作成、編集、共有や、アイテムまたはデータに対する解析の実行はできません。Viewer は、アプリの選択を使用できますが、アプリやストーリーを作成する

ことはできません。Viewer には、組織内部に所属するマップとアプリにアクセスする必要がある意思決定者を含めることができます。「[Viewer ユーザー タイプ](#)」をご参照ください。

Contributor - Contributor は、ArcGIS のマップとアプリのデータを表示および編集できます。このユーザー タイプは、共有されているデータにアクセスしこれを編集する必要のあるユーザーに対して有益で、アプリの選択へのアクセス権を含んでいます。

このユーザー タイプは、共有されているデータにアクセスしこれを編集する必要があるユーザーに適しています。Contributor は、アイテムおよびデータの解析、作成、共有はできません。「[Contributor ユーザー タイプ](#)」をご参照ください。

Mobile Worker - Mobile Worker は、現場でデータを取得し、専用のフィールド アプリで、安全に作業のアサインメントとルート案内を受信し、最新情報を交換し、位置を共有できます。

このユーザー タイプは、モバイルユーザーが、ArcGIS Online またはフィールド アプリで直接データを表示、収集、編集し、位置を共有して、位置のトラッキングを記録するためのものです。Mobile Worker は、アイテムおよびデータの解析、作成、共有はできません。「[Mobile Worker ユーザー タイプ](#)」をご参照ください。

Creator - Creator は、マップやアプリなどのコンテンツの作成および編集、ArcGIS Online の解析ツールを使用したフィーチャ解析の実行、データの収集、アプリで使用するコンテンツの共同作業と共有が可能です。また、[ArcGIS Pro Basic](#) を使用して、2D マップや 3D マップ、対話形式の視覚化を作成することもできます。

Creator ユーザー タイプは、GIS 専門家、アセット マネージャー、データ ジャーナリスト、その他のコンテンツ作成者と共同作業者に おすすめします。「[Creator ユーザー タイプ](#)」をご参照ください。

Professional - Professional ユーザーは [ArcGIS Pro Standard](#) を使用して高度な 2D および 3D マッピング、視覚化、解析を構築できます。これは、マップの作成、対話形式の視覚化、マルチユーザー編集、高度なデータ管理のためのツールと環境を提供します。また、Professionals は、ArcGIS Online を使用して、アプリで使用されるコンテンツの作成、編集、共同作業、共有も行うことができ、組織内のユーザーとコンテンツを管理することもできます。

このユーザー タイプは、GIS アナリスト、地図制作者、その他の GIS 専門家に適しています。「[Professional ユーザー タイプ](#)」をご参照ください。

Professional Plus - Professional Plus ユーザーは [ArcGIS Pro Advanced](#) を使用して高度な 2D および 3D マッピング、視覚化、解析を構築できます。これは、マップの作成、対話形式の視覚化、マルチユーザー編集、高度なデータ管理、高度な解析、ハイエンドのカートグラフィー、大規模なデータベース管理のためのツールと環境を提供します。また、ArcGIS Online を使用して、アプリで使用されるコンテンツの作成、編集、共同作業、共有も行えます。Professional Plus ユーザーは、組織内のユーザーとコンテンツを管理できます。

このユーザー タイプは、上級 GIS アナリスト、開発者、上級地図制作者に適しています。「[Professional Plus ユーザー タイプ](#)」をご参照ください。

ユーザー タイプは、メンバーのニーズに基づいて割り当てます。詳細については、[ユーザー タイプ](#) (ヘルプ) をご参照ください。

メンバー ロール

ロールは、メンバーに割り当てられた[権限](#)のセットを定義します。権限はロールに割り当てられ、メンバーに特定の権利を付与します。権限は、メンバーが組織内でできることと、できないことを制御します。デフォルト ロールに付与された権限は変更できませんが、組織の管理者は、カスタムロールに権限を割り当てたりカスタム ロールの権限を変更したりすることはできます。

メンバーは、組織に招待されるときに、ロールが割り当てられます。その後、ロールは組織の設定のメンバー ロール セクションで管理されます。

デフォルト ロール

ArcGIS Online には、デフォルト ロールに対するデフォルトの権限のセットが含まれています。次のデフォルト ロールに対する権限を以下に示します:

閲覧者は、組織のマップとアプリを使用してデータを探索したり、グループに加入してグループで共有されるコンテンツにアクセスしたりすることができます。ただし、これらのメンバーは、コンテンツの作成および共有はできません。また、解析やデータへの情報付加も実行できません。

データ編集者は、閲覧者の権限に加えて、フィーチャを編集することもできます。

ユーザーは、データ編集者の権限に加えて、グループおよびコンテンツを作成することもできます。ユーザーは、組織サイトのマップ、アプリ、レイヤー、ツールを使用できます。また、これらのメンバーは、マップとアプリの作成、フィーチャの編集、アイテムの追加、コンテンツの共有、グループの作成も実行できます。

公開者は、ユーザーの権限に加えて、自分のフィーチャやマップ タイルをホストされた Web レイヤーとして公開できることもできます。また、マップ内のレイヤーの解析も実行できます。

ファシリテーターは、公開者の権限に加えて、[パートナー コラボレーション](#)を作成および管理することもできます。

管理者は、公開者の権限に加え、組織とそのメンバーを管理する権限を持ちます。組織には少なくとも 1 人の管理者が存在している必要があります。

メンバーのユーザー タイプにより、メンバーに割り当てることができるデフォルト ロールが決定します。たとえば、閲覧者ロールはすべてのユーザー タイプに対応しています。公開者ロールは、Creator、Professional、または Professional Plus ユーザー タイプに対応しています。

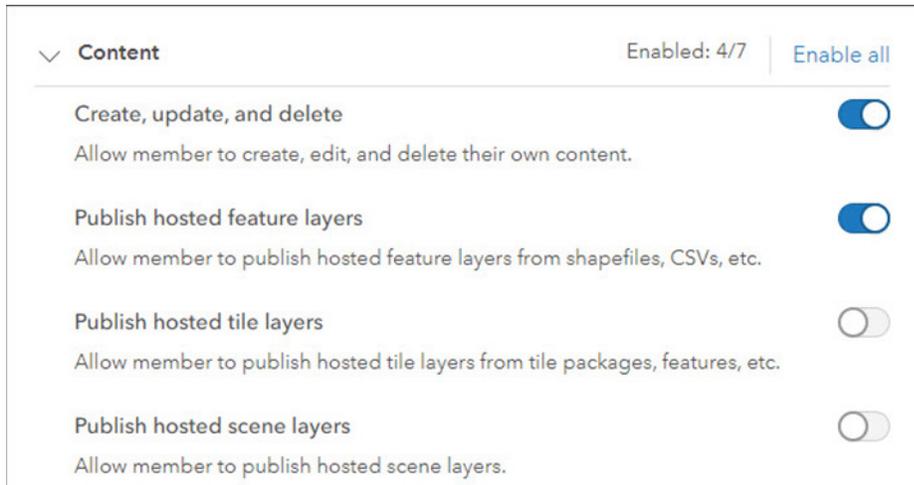
概要については、「[メンバー ロール](#)」(ヘルプ)をご参照ください。デフォルト ロールと対応するユーザー タイプを示す表については、「[デフォルト ロール](#)」(ヘルプ)をご参照ください。

カスタム ロール

デフォルト ロールを使用するだけでなく、カスタム ロールを作成することもできます。管理者および適切な権限を持つメンバーは、組織のデフォルト ロールよりも自由度と柔軟性が高いカスタム ロールを構成することができます。たとえば、ホスト フィーチャ レイヤーを公開する必要はあるがホスト タイル レイヤーを公開する必要はない、というメンバーがいる場合などです。あるいは、メンバーにデフォルトの公開者ロールと同じ権限を与えたいが、GeoEnrichment サービスの使用は許可しないという場合があります。

カスタム ロールは、組織の設定ページのメンバー ロール タブで作成および管理されます。

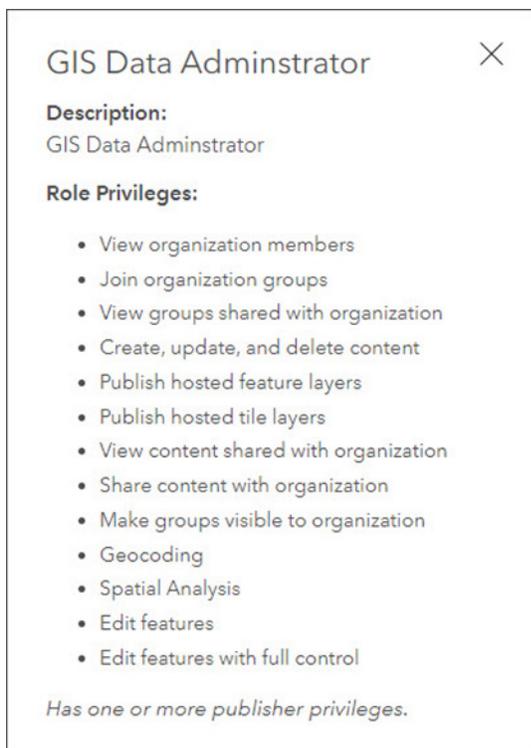
カスタム ロールを作成する場合、最初に名前と説明を割り当てます。その後で、権限を割り当てる
ことができます。権限はカテゴリとサブカテゴリにグループ化され、個別にオン/オフを切り替
えることができます。



ロールには次のような性質があります。

- デフォルト ロールを使用することも、カスタム ロールを作成することもできます。
- カスタム ロールはテンプレートに基づきます。
- カスタム ロールは、管理者または適切な権限を持つメンバーが作成することができます。
- 組織の管理タスクを軽減するために、カスタム ロールにカスタム管理設定を含めることができます。
- デフォルト ロールとカスタム ロールは組織の設定のメンバー ロール セクションで設定します。
- 管理者は、組織の設定のメンバー ロール セクションにある情報ボタンを使用してアクセスできるロール カードを表示して、各ロールの権限を確認することができます。

カスタムの GIS データ管理者ロールで有効化されている権限の例を次に示します:



詳細については、[カスタム ロール](#) (ヘルプ) をご参照ください。

新しいメンバーのデフォルト設定

組織の設定の新しいメンバーのデフォルト設定セクションでは、デフォルトのユーザー タイプ、ロール、アドオン ライセンス、グループ メンバーシップなどを指定することができます。

新しいメンバーのデフォルト設定で、新しいメンバーを追加または招待する際の以下の設定を指定できます。

- ユーザー タイプとロール
- アドオン ライセンス
- グループ メンバーシップ
- メンバー カテゴリ
- Esri アクセス (My Esri を使用したトレーニングの受講、コミュニティーへの参加、ブログへのコメントの追加、Esri からの電子メール連絡の管理)

- デフォルトのユーザー名の形式

新しいメンバーのデフォルト設定は、メンバーの招待プロセス中またはそれ以降に、必要に応じて変更することができます。

クレジット

組織の設定のクレジット セクションで、一部またはすべての組織メンバーに対してクレジット使用制限ツールを有効にすることで、クレジット消費を管理および制御できます。

任意のクレジットを各メンバーに、1 人ずつ、または一括処理で割り当てることができます。メンバーへの割り当ては、いつでも変更できます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- カスタム ロールはメンバーの権限やアクセス権を微調整するのに役立ちます。
- カスタム ロールを過剰に使用せず、管理しやすくわかりやすい基本的なロールを作成してください。
- カスタム ロールを使用して管理タスクを分散します。
- 組織の発展とともにロール、権限、アプリを最大限柔軟に使用できるよう、[エンタープライズ契約](#) (EA) 取得することを検討してください。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ユーザー タイプ](#) (Web サイト)
- [ユーザー タイプ、ロール、権限](#) (ヘルプ)
- [メンバー ロールの構成](#) (ヘルプ)
- [新しいメンバーのデフォルトの構成](#) (ヘルプ)

- [ArcGIS Online の価格](#) (Web サイト) - 各ユーザー タイプに含まれているものについて詳しい説明があります。

第 5 章: 組織設定の微調整

組織とメンバーを成功に導きます。

組織の設定を微調整して、ホーム ページの外観、ギャラリー タブとグループ タブ、ベースマップ ギャラリー、メンバー ロール、セキュリティー、コラボレーションなどを構成することができます。これらすべてが、メンバーおよび組織全体の成功の要因となります。

組織設定

管理者は、トピック別に整理された一連の設定によって組織 (ArcGIS Online Web サイト) 全体を管理することができます。これらの設定は組織のコア フレームワークです。

これらの設定にアクセスするには、**組織**をクリックして**設定**をクリックします。組織の設定は、ページの左側のタブに次のように構成されています:

一般 - 地域、言語、範囲、管理者の問い合わせ先、ナビゲーション バーの表示設定など、組織のデフォルト設定を管理します。

ホームページ - ホーム ページ エディターにアクセスします。

ギャラリー - ホーム ページの**ギャラリー** タブに表示するグループを選択します。

AI アシスタント - 組織のメンバーが使用するために ArcGIS Online で AI アシスタントを有効化することを選択します。「[AI アシスタントの構成](#)」をご参照ください。

マップとシーン - マップとシーンのデフォルト設定、ベースマップ ギャラリーなどを管理します。

アイテム - コメント、メタデータ、関連アイテム検索の表示と許可を行います。組織カテゴリーを構成し、ゴミ箱を有効にします。

グループ - 組織のホームページの注目のグループ タブに表示されるグループを管理します。

ユーティリティー サービス - ジオコーディング ロケーター、印刷、ジオエンリッチメント サービス、ルート案内とルート検索を構成します。

メンバー ロール - メンバー ロールを作成、編集、管理します。

新しいメンバーのデフォルト設定 -- 新しいメンバーの基本的なデフォルト設定を行います。

マーケットプレイス - 組織のメンバーによる ArcGIS Marketplace での購入を管理します。

コラボレーション - パートナー コラボレーションと分散コラボレーションを作成および管理します。

クレジット - メンバーのクレジット使用制限を管理します。

セキュリティー - アクセスと権限、ログイン認証情報、パスワードのポリシーを管理し、アクセス時の通知と情報バナーの組織の通知を設定します。

オープンデータ - オープンデータ リソースを有効化および管理します。「[オープンデータの有効化](#)」をご参照ください。

Hub - 管理者コミュニティの Hub とイニシアティブを管理します。

組織エクステンション - 位置情報の共有など、組織全体のエクステンションを管理します。

ヒントとベストプラクティス

使用可能なタブやオプションに一通り目を通して、実装する前に何ができるか探索します。

以下のセクションでは、主な設定について詳細に説明します。

一般設定

組織のプロフィール

このセクションでは、組織名とロゴを設定します。

組織の確認

管理者は、組織を確認済みにして組織の ID を検証するよう、Esri に依頼することができます。確認済み組織は、パブリック アイテムを **信頼済み** として指定できます。パブリック アイテムを信頼済みアイテムとして指定すると、組織内外の他のユーザーが、信頼性の高い最新のコンテンツを見つけ

やすくなります。このようなアイテムには信頼済みバッジが表示され、フィルターが可能になり、検索結果での表示順位が上がります。

連絡先リンク

ホームページの最下部に表示される連絡先リンクを確立します。

管理者の問い合わせ先

メンバーが問い合わせたときに送信される自動電子メール通知に問い合わせ先としてリストされる管理者を指定します。この問い合わせ先は、Esri カスタマー サービスからの連絡先としても使用されます。

ナビゲーションバー

組織のナビゲーションバーでのページ (タブ) の表示設定を変更します。アプリランチャーに Web アプリを追加すると、組織のメンバーがそのアプリをさらに簡単に利用できるようになります。アプリランチャーはメンバーがサインインした後で表示されます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [一般設定の構成](#) (ヘルプ)
- [ナビゲーションバー](#) (ヘルプ)
- [組織の確認](#) (ヘルプ)

ギャラリー設定

ギャラリーに表示

ギャラリー タブは、組織のホーム ページの最上部にあります。ギャラリーを使用して、組織の優れたコンテンツや最も有用なアプリを目立たせることができます。この設定では、ギャラリーに表示するアイテムが含まれているグループを指定します。

詳細

詳細については、「[ギャラリーの構成](#)」(ヘルプ) をご参照ください。

マップおよびシーンの設定

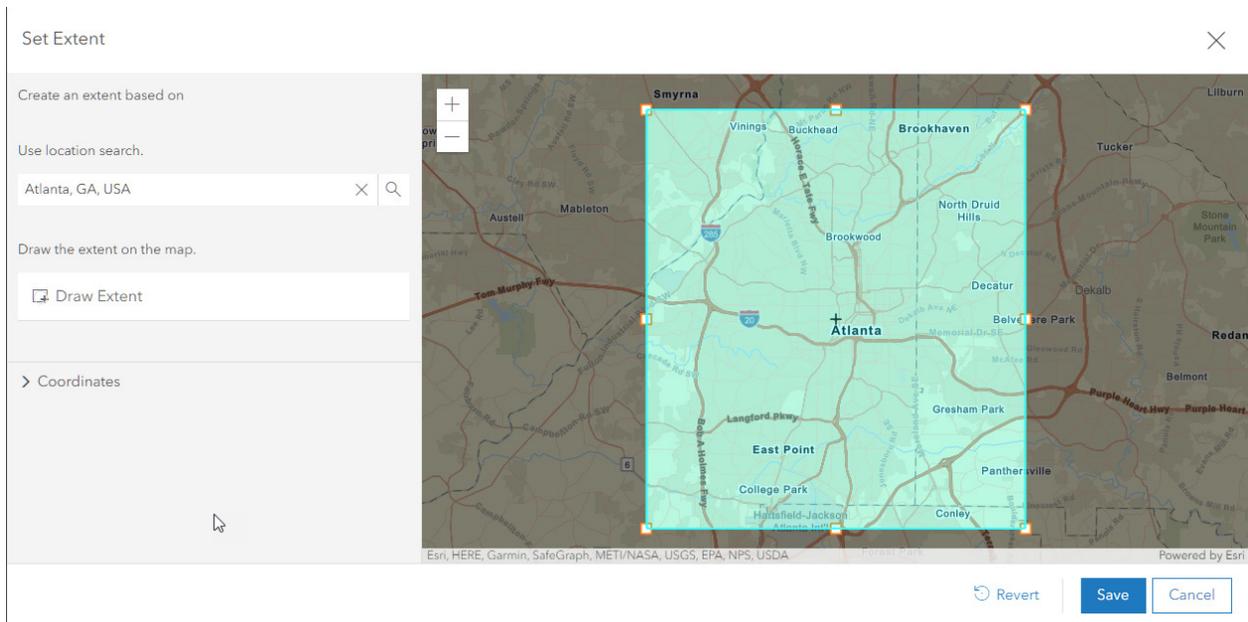
マップとシーン タブには、組織の重要な設定がいくつか含まれています。ここでは、ベースマップギャラリー、デフォルト ベースマップ、デフォルトの表示範囲と単位などを設定することができます。

マップおよびシーンのベースマップ ギャラリー

Esri のデフォルト ベースマップを使用することも、カスタム ベースマップ ギャラリーを作成して、Esri ベースマップを Living Atlas のマップや独自のマップと組み合わせることもできます。カスタム ベースマップ ギャラリーを使用するには、マップをグループに追加して、ここでグループを指定します。

マップおよびシーンのデフォルト

ユーザーがマップを作成するたびに、このセクションで指定したデフォルト ベースマップが開きます。マップはデフォルトの表示範囲で開き、表示範囲は市町村、都道府県、またはその他のエリアの範囲に設定できます。表示範囲を設定するには、四角形を描画するか座標を入力します。



Web スタイル

Web スタイルは、アイテムに格納されるシンボルのコレクションです。アプリは、Web スタイルを使用して、2D または 3D シンボルによってフィーチャをシンボル表示できます。シンボルギャラリーで使用するグループを選択します。

解析レイヤー

組織の解析ワークフローでよく使用するレイヤー (市の境界、警察管轄区域、消防区域など) がある場合、それらのレイヤーを解析ツールで自動的に表示することができます。レイヤーをグループに配置し、そのグループをこの設定で選択します。詳細については、「[解析レイヤーの構成](#)」をご参照ください。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- タイル ラスター ベースマップではなくベクター ベースマップを使用します (タイル ラスター ベースマップは開発終了バージョン サポートになっており、今後は更新されません)。

- ベースマップとして使用する独自のマップを作成し、これらのマップを Esri のデフォルト ベースマップと組み合わせます。[Vector Tile Style Editor](#) を使用して、Esri ベクターベースマップのスタイルを編集することで、カスタム ベースマップを作成することができます。
- 組織に適したデフォルト ベースマップと表示範囲を設定します。たとえば、市町村や都道府県の境界をデフォルトの表示範囲として設定することができます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ベースマップ ギャラリー \(ヘルプ\)](#)
- [組織のカスタム ベースマップ ギャラリーの作成 \(ブログ\)](#)
- [ArcGIS Living Atlas を使用したカスタム ベースマップ ギャラリーの作成 \(ブログ\)](#)

アイテムの設定

コメント

この設定を使用して、組織内のアイテムに関するコメントを表示および許可することができます。コメントは**概要**タブの下部に表示され、アイテムの所有者やサインインしている他のユーザーが追加できます。コメントは、公開後に削除できますが、編集することはできません。アイテムの所有者は、新しいコメントについての電子メール通知を受信します。また、自分が所有するアイテムの公開されたコメントを削除できます。ただし、コメントが必要で、コメントをレビューおよび管理することが確実である場合を除き、コメントはオフのままにすることをおすすめします。

メタデータ

メタデータは、アイテムを説明する情報です。各アイテム ページには、サマリー、説明、利用規約、著作権情報が含まれています。これらを使用することで、アイテムを文書化する際の柔軟性が得られます。ただし、さらに定型化されたメタデータ スタイルを使用したい場合は、この設定を有効にすることができます。さまざまなメタデータ スタイルから選択できます。詳細については、「[メタデータの表示と編集](#)」をご参照ください。

組織のカテゴリ

カテゴリを使用すると、コンテンツを整理することができます。カテゴリはいつでも追加または削除できます。テンプレートを使用することも、カスタム カテゴリを作成することもできます(多くの組織ではこちらが推奨されます)。カテゴリは検索可能であるため、メンバーは指定したカテゴリのアイテムを検索することができます。

カテゴリは一時的に使用することもできます。たとえば、**Route 57 Improvement Project** という名前のカテゴリを作成し、プロジェクトにとって重要なすべてのマップ、アプリ、レイヤーをこのカテゴリに分類します。プロジェクトが完了したら、このカテゴリを削除することができます。

カテゴリはグループおよびグループベースの[カテゴリ ギャラリー Instant App](#)でもサポートされます。グループ カテゴリはグループに固有です。カテゴリ ギャラリーでは、組織カテゴリまたはグループ カテゴリを使用できます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- コメントは監視する場合にのみ有効にします。
- タグは検索に役立ちますが、カテゴリは組織のコンテンツを整理してフィルターする手段としてさらに効果的です。
- 特定のプロジェクトやワークフローに合わせてカテゴリの使用を調整するには、カスタム カテゴリが推奨されます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [メタデータの表示と編集 \(ヘルプ\)](#)
- [コンテンツのカテゴリ \(ヘルプ\)](#)
- [カテゴリ ギャラリーでのコンテンツの探索 \(ブログ\)](#)

グループ設定

グループは ArcGIS Online の主要な整理用コンポーネントであり構成要素です。たとえば、ベースマップ ギャラリーは、マップが含まれているグループを使用して設定されます。組織の**ギャラリー** タブに表示するアイテムは、グループで指定します。グループを使用することで、ホーム ページに特定のコンテンツを表示できます。

注目のグループ

注目のグループに表示されるグループを選択します。デフォルトでは、組織内でより役立つグループではなく、Esri グループが表示されます。

ヒントとベストプラクティス

Esri のデフォルトのグループを使用する代わりに、注目のグループを編集して、組織の目玉となるマップ、アプリ、ストーリーが含まれているグループや、基本的なコンテンツに簡単にアクセスできるグループを表示します。

詳細

[「注目のグループ」](#) (ヘルプ) をご参照ください。

メンバー ロール設定

ロールによって、組織内のメンバーに割り当てる権限を制御します。デフォルト ロールを使用して権限を割り当てることも、カスタム ロールを作成することもできます。ユーザーのロール、タイプ、権限については、「[第 4 章: メンバーのタイプ、ロール、権限](#)」で詳しく説明しています。

新しいメンバーのデフォルト設定

新しいメンバーを組織に招待する際のユーザー タイプとロールのデフォルト設定を構成することができます。アドオン ライセンス、新しいメンバーの割り当て先グループ、クレジット割り当てを管理することもできます。これらの設定は招待プロセス中に変更することができます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [新しいメンバーのデフォルトの構成](#) (ヘルプ)
- [メンバーの招待と追加](#) (ヘルプ)

クレジット設定

ArcGIS Online クレジットは、ArcGIS 全体で使用される通貨のようなものです。マップやシーンの作成や、アプリの作成など、メンバーが行うほとんどの操作は、クレジットを消費しません。クレジットは、解析の実行、コンテンツの公開、住所のジオコーディングなど、特定の処理に対して消費されます。クレジット消費の管理および制御は、組織を効率的に管理する上で重要な要素です。

クレジット割り当て

クレジットを消費する操作には、ストレージ、解析、プレミアム コンテンツ、バッチ ジオコーディング、コンテンツの公開があります。バッチ ジオコーディング、コンテンツの公開、一部のタイプの解析の実行では大量のクレジットが消費されることがあります。これらの設定を使用して、クレジット消費を制限および管理することができます。

ヒントとベストプラクティス

組織の新しいメンバーがクレジット消費を減らすためのベスト プラクティスを習得するまでは、新しいメンバーのクレジット消費を制限することで、大量のクレジットを消費するタスクが不注意により実行されるのを防止することができます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [クレジットの構成](#) (ヘルプ)
- [クレジットの概要](#) (ヘルプ)
- [ArcGIS Online でのクレジットの管理](#) (ブログ)

セキュリティー設定

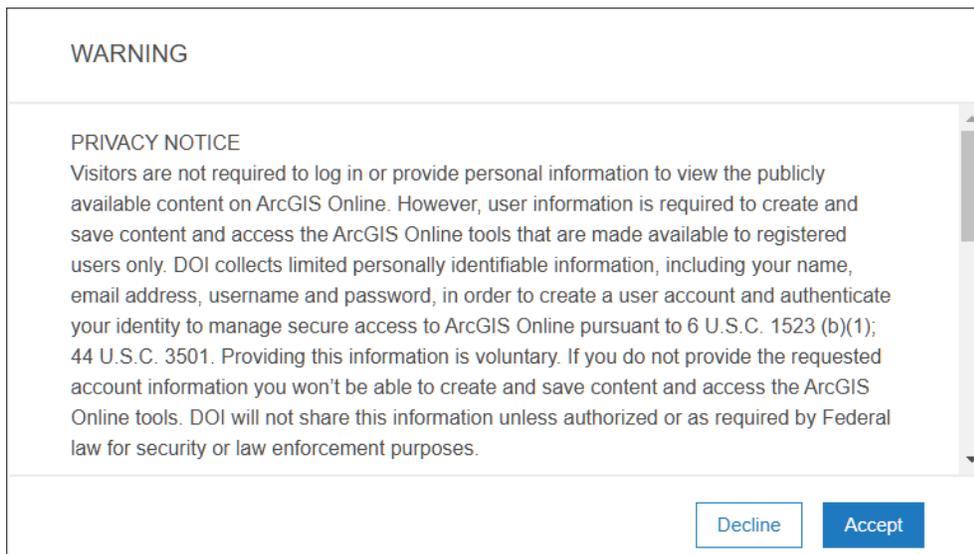
セキュリティーは組織と組織のコンテンツにとって重要です。このセクションでは、組織全体のセキュリティー設定の管理、パスワード ポリシーの定義、ログイン方法の管理、多要素認証の設定、メンバーや一般訪問者へのメッセージングの制御を行うことができます。

電子メールの確認

ArcGIS Online ユーザーと管理者は、電子メール アドレスが有効であることを確認することで、パスワードのリセットやアカウントの変更といった重要な情報を ArcGIS Online から受信できるようになります。

アクセス時の通知

アクセス時の通知によって、ユーザーまたは訪問者が組織のホーム ページにアクセスする際に表示されるメッセージを管理します。たとえば、ホーム ページが表示される前に、利用条件のメッセージやその他の重要な情報が表示されるようにすることができます。アクセスは、**同意する/同意しない** トグル ボタン、または **OK** のみで制御されます。



情報バナー

情報バナーを使用して、サイトを訪問しているすべての人に、重要なニュース、アップデート、変更内容を知らせることができます。



ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- メンバーが組織の別の場所で使用しているものと同じログインを使用できるようにするには、SAML または OpenID ログインを設定します。組織のリソースにアクセスするための権限は、引き続き組織の設定を使用して管理されます。
- 組織のポリシーに従って、ArcGIS Online 組織のパスワードの有効期間を設定します。
- 匿名アクセスを許可する場合 (推奨)、組織のホーム ページにアクセスした訪問者に合わせた構成になっていることを確認します。
- [ArcGIS Security Advisor](#) を使用して、セキュリティー関連の設定と推奨事項を確認します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [セキュリティー設定の構成](#) (ヘルプ)
- [ArcGIS のセキュリティー](#) (ヘルプ)

- [ArcGIS Trust Center](#) (Web サイト)

第 6 章: グループの使用

グループは、組織の構成要素です。

グループはコンテンツのコレクションであり、通常は特定のトピックまたはプロジェクトに関連しています。グループを作成してアイテムを整理し、コンテンツを組織のさまざまな部門に提供し、組織を構築することができます。グループの所有者は、グループを検索できるユーザー、加入できるユーザー、およびコンテンツを提供できるユーザーを決定します。

コンテンツとメンバーをグループに整理

グループにはメンバーとその作業も割り当てることができます。メンバーを組織に招待する際に、メンバーをグループに割り当てることができます。

グループには、サポートするプロジェクトやワークフロー別に、グループのメンバーが各自の作業を遂行するのに役立つ、意味のあるコンテンツ (マップ、アプリ、レイヤーなど) を含めることをおすすめます。

グループは ArcGIS Online のアイテムなので、サムネイル、サマリー、説明、タグなどを持ちます。これらのエレメントを完成させるためのベストプラクティスを使用します。

他のメンバーがグループの目的やグループに含まれているコンテンツを理解できるように、グループを文書化します。

管理者にとって、グループは組織の重要なエレメントです。グループを使用して、カスタム ベースマップ ギャラリーを作成したり、ホーム ページ上にギャラリーを作成したり、カスタム アプリ テンプレートを整理したりすることができます。

必要なグループの決定

各種ギャラリー (ベースマップ、ホーム ページ、構成可能なアプリ、Open Data、Hub) にアイテムを提供するグループが必要になることがあります。

組織の各部門に対応するグループを作成して設定することもできます。グループについてのその他のアイデアを現在のプロジェクトやイニシアティブからも得ることができます。

グループを使用して、社内および社外の目的の両方に、管理ノードとコラボレーション ノードを設定することもできます。

組織が発展するに伴い、各アクティビティに対応するグループを管理者が作成したり、メンバーがグループを作成して、各自のコンテンツを管理して共同作業したりすることができます。

ヒントとベストプラクティス

組織図や関与する構成要員から、どのグループが必要であるかについてアイデアを得ます。出発点として組織内のさまざまな部門や大規模プロジェクト チームを使用します。

グループ設定

グループを使用することで、組織のニーズに合わせて柔軟に作業することができます。グループを作成する際は、グループを表示できるユーザー、グループのメンバーになれるユーザー、ユーザーの加入方法、およびコンテンツを提供できるユーザーを決定できます。

コラボレーショングループ

管理者がコラボレーションを作成したら、ユーザーはそのコラボレーション ワークスペースにリンクされているグループとコンテンツを共有できます。共有したコンテンツは、他のコラボレーション参加者が各自の環境で検索できます。コラボレーションでは、データの作成元の組織の共有設定に基づいてコンテンツが共有されます。

たとえば、ArcGIS Online アカウントを持っている組織外の人と共同で作業することができます。グループを作成し、複数の組織にまたがってグループ内でコンテンツを共有することができます。別の組織のメンバーをそのグループに招待して、コンテンツを共有および表示することができます。

ヒントとベストプラクティス

チームが組織の外部の GIS アナリストと共同で作業する場合、コラボレーション グループを使用することで、組織とアナリストの両方が管理する必要がある指定ユーザー アカウントの数を減らします。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [コラボレーションの概要](#) (ヘルプ)
- [分散コラボレーションの使用](#) (ヘルプ)
- [分散コラボレーションの仕組み](#) (ヘルプ)
- [分散コラボレーションの作成](#) (ヘルプ)
- [分散コラボレーションの管理](#) (ヘルプ)
- [パートナー コラボレーションの作成](#) (ヘルプ)
- [パートナー コラボレーションの管理](#) (ヘルプ)

グループの規則の確立

最終的に、組織のメンバーシップはグループの数とともに増加していきます。早い段階でグループの規則を確立しておくとい良いでしょう。

見つけようとするグループを識別するために、視覚的な手掛かりを使用できます。たとえば、組織の骨格に相当するグループにはどれも同じロゴを使用し、組織の構成要素であるグループは色によって区別します。命名規則を使用することで、関連するグループを整理して表示することもできます。



このような方法によって、グループやグループ内のアクティビティーの数が増えても整然とした状態を維持することができます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- グループのサムネイルで一貫した視覚的手掛かりを用いることで、サムネイルを把握しやすくします。
- 直観的な命名規則とアルファベット表記を使用することで、グループを常に整理された状態にします。
- 有益な説明を追加します。
- 各グループに意味のあるコンテンツを含めます。
- メンバーが作業をしやすくするため、メンバーをグループに招待するときに割り当てを自動的に行います。
- わかりやすいサマリー、説明、タグ、サムネイルを設定して、グループのコンテンツを作成します。
- グループの**概要**ページに掲載するコンテンツを厳選することで、満足度を高めることができます。デフォルトでは新しいものから順にグループ コンテンツがリストされますが、注目してもらいたい特定のグループ コンテンツを選択することで、満足度を高めることができます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [グループの作成の開始](#) (ヘルプ)
- [グループの作成](#) (ヘルプ)
- [グループの構成](#) (ヘルプ)
- [グループの管理](#) (ヘルプ)

- [グループへのメンバーの割り当て \(ヘルプ\)](#)
- [厳選されたギャラリーを使用してグループ コンテンツを効果的に表示 \(ブログ\)](#)

グループ用アプリ

マップと同様に、構成可能なアプリを使用して、グループ内のコンテンツをさまざまな方法で表示することができます。カテゴリ ギャラリー アプリは、さまざまな方法でアイテムをフィルターしたり並べ替えたりしてグループのコンテンツを表示し、組織のコンテンツ カテゴリまたはグループ独自のカテゴリを適用することができます。

グループは階層構造にすることもでき、グループのグループを作成してコンテンツを効率的に整理することができます。

[ArcGIS StoryMaps コレクション](#)は、ユーザーが閲覧および共有するコンテンツを収集する別の方法です。ストーリーのコレクションを作成することも、その他のサポートされているアイテムを作成することもできます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [グループからのアプリの作成 \(ヘルプ\)](#)
- [カテゴリ ギャラリー \(ヘルプ\)](#)
- [カテゴリ ギャラリーでのコンテンツ カテゴリの探索 \(ブログ\)](#)
- [ArcGIS StoryMaps での初めてのコレクションの作成 \(ストーリー\)](#)

例

例については、「[カテゴリ ギャラリー \(サンプル\)](#)」(カテゴリ ギャラリーを使用)をご参照ください。

第 7 章: メンバーのベストプラクティス

プロフィールとコンテンツはあなた自身を物語ります。

ベスト プラクティスは組織のすべてのメンバーに適用されます。自分のプロフィールで自己紹介し、作成したコンテンツについて記録し、管理することを習慣付けます。

プロフィール

組織の内部と外部 (パブリック コンテンツを公開する場合) のいずれに対しても、プロフィールはあなたのことを示します。プロフィールは検索可能なアイテムの一部であり、グループやアイテムにアクセスするきっかけをもたらします。

管理者によって別の設定が行われている場合を除き、デフォルトでは、プロフィールは自分の組織内でのみ表示されますが、ただし、パブリック コンテンツを公開する場合は、自身のプロフィールを (プロフィール設定で) 一般ユーザーに表示することで、あなたのパブリック コンテンツを見つけた人が情報源を特定できるようにすることをおすすめします。

個人のプロフィールを使用して組織の代わりにコンテンツを公開することもできますが、別の方法として、組織の優れたコンテンツを所有するための特別に設定したプロフィールを使用することも考えられます。この方法では、あなたのコンテンツは個人の代わりにあなたの組織から提供されません。詳細については、「[第 3 章: 組織のプロフィール](#)」をご参照ください。

プロフィールの自己紹介情報

効果的なプロフィールに役立つ多くのスタイルを考慮することができます。以下の例では、コンテンツの所有者である Scott についての基本情報 (連絡先情報を含む) が表示されています。

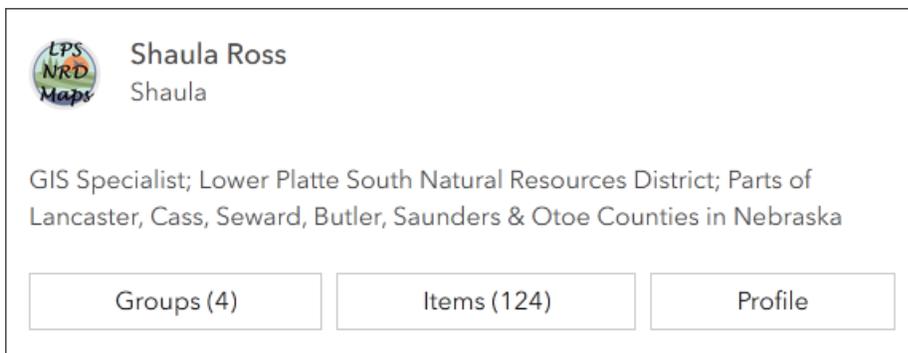



Scott McGee
 scott_mcgee@fws.gov_fws

Cartographer, U.S. Fish & Wildlife Service, Region 7 (Alaska), Division of Realty. E-mail: scott_mcgee@fws.gov

Groups (1) Items (55) Profile

以下の例では、Shaula は、組織のロゴを使用してこの組織に加入していることを明示することで、Lower Platte South Natural Resources District の GIS 専門家であることを認識できます。

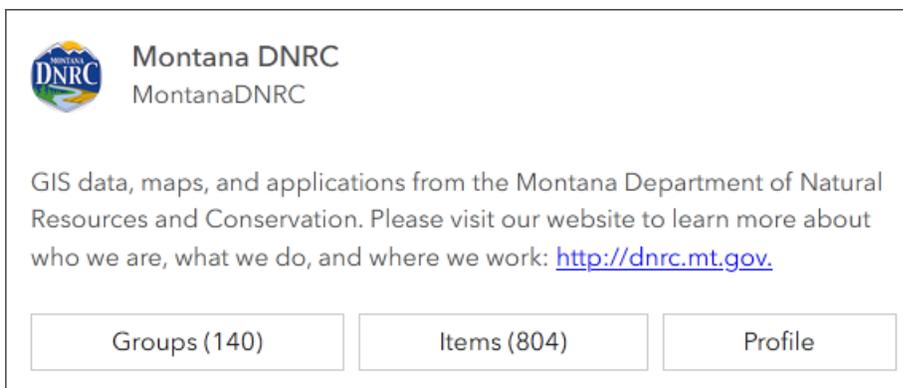



Shaula Ross
 Shaula

GIS Specialist; Lower Platte South Natural Resources District; Parts of Lancaster, Cass, Seward, Butler, Saunders & Otoe Counties in Nebraska

Groups (4) Items (124) Profile

次の例では、組織を表すために作成されたプロフィールを示しています。このプロフィールは Montana DNRC のロゴを使用しています。これは、アイテムのサムネイルにも表示されます。




Montana DNRC
 MontanaDNRC

GIS data, maps, and applications from the Montana Department of Natural Resources and Conservation. Please visit our website to learn more about who we are, what we do, and where we work: <http://dnrc.mt.gov>.

Groups (140) Items (804) Profile

この最後の例は、組織のホーム ページとギャラリーにリンクしている確認済み組織のプロフィールを示しています。



The Rivers Trust
Item managed by: RTanneka

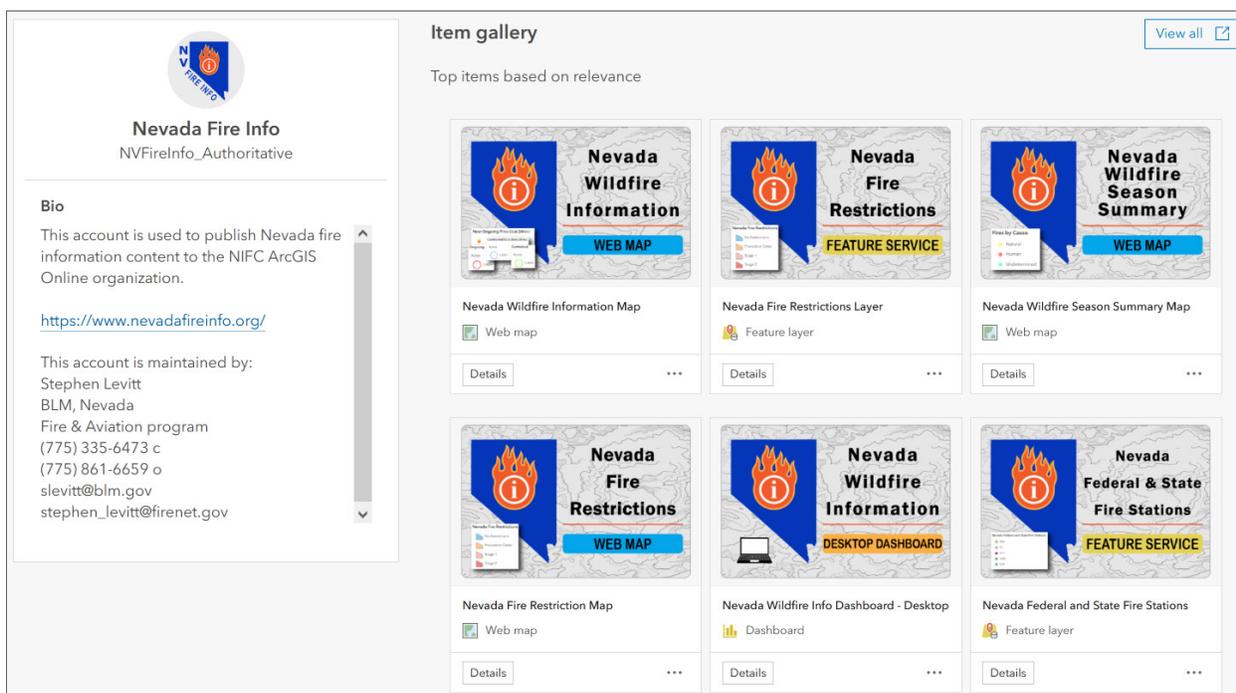
We are the umbrella body for the Rivers Trust movement across the UK and Ireland. Our vision is wild, healthy, natural rivers, valued by all. With your help, we can make this a reality. Together, for rivers. Join us and find out more at www.theriverstrust.org. Contact us at info@theriverstrust.org.

Home page Gallery

これらはいずれも、アイテムの所有者の詳細を知るのに役立つ詳しい情報を含んでいます。

プロフィールのアイテム ガラリー

プロフィールには、自己紹介情報に加え、プロフィールの所有者が作成したコンテンツのギャラリーが表示されます。デフォルトでは、プロフィールに、関連性に基づいてアイテムが表示されます。



Nevada Fire Info
NVFireInfo_Authoritative

Bio
This account is used to publish Nevada fire information content to the NIFC ArcGIS Online organization.
<https://www.nevadafireinfo.org/>
This account is maintained by:
Stephen Levitt
BLM, Nevada
Fire & Aviation program
(775) 335-6473 c
(775) 861-6659 o
slevitt@blm.gov
stephen_levitt@firenet.gov

Item gallery View all

Top items based on relevance

- Nevada Wildfire Information (WEB MAP)
- Nevada Fire Restrictions (FEATURE SERVICE)
- Nevada Wildfire Season Summary (WEB MAP)
- Nevada Fire Restriction Map (Web map)
- Nevada Wildfire Info Dashboard - Desktop (Dashboard)
- Nevada Federal and State Fire Stations (FEATURE SERVICE)

デフォルトの作成した関連アイテムを表示するのではなく、作成した優れたコンテンツに注目を集め、人気のあるアプリケーションを効果的に見せて、リソースにアクセスするためのカスタム プロフィール アイテム ガラリーを作成するのがよいでしょう。

プロフィールで、**アイテムのカスタマイズ**をクリックし、効果的に表示するコンテンツを選択します。



ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 自分自身と組織内での自分の役割について紹介する、専門職としてのプロフィールを表示します。
- 自分自身または組織の連絡先情報 (該当する場合) を含めます。
- すべての情報を盛り込みますが、簡潔にします。プロフィールは専門的な履歴書である必要はありません。
- 優れたコンテンツを効果的に見せ、自分が作成した便利なマップやアプリに注目が集まるように、プロフィールのギャラリーをカスタマイズします。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

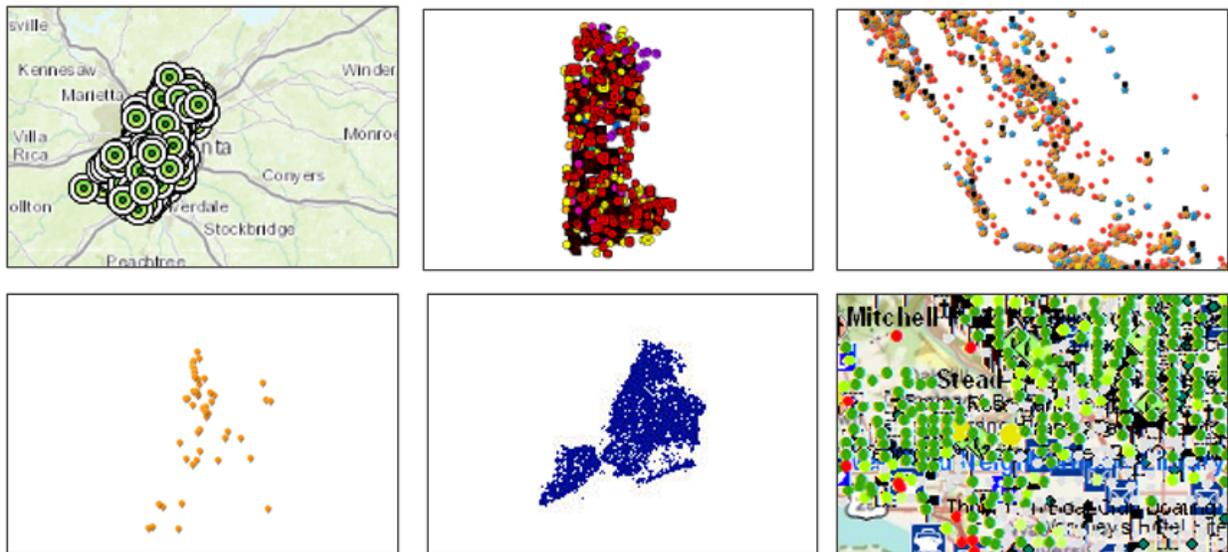
- [優れたプロフィールの作成](#) (ブログ)
- [プロフィールのアイテムギャラリーのカスタマイズ](#) (ブログ)
- [プロフィールと設定の管理](#) (ヘルプ)

サムネイル

すべてのアイテムにはサムネイルがあります。サムネイルはアイテムへの視覚的な手掛かりを提供し、組織のブランドが含まれていることもあります。サムネイル画像は、アイテムをサイトに追加するとき、デフォルトで作成されます。これは、ギャラリー、検索結果、コンテンツ、およびアイテム ページに表示されます。

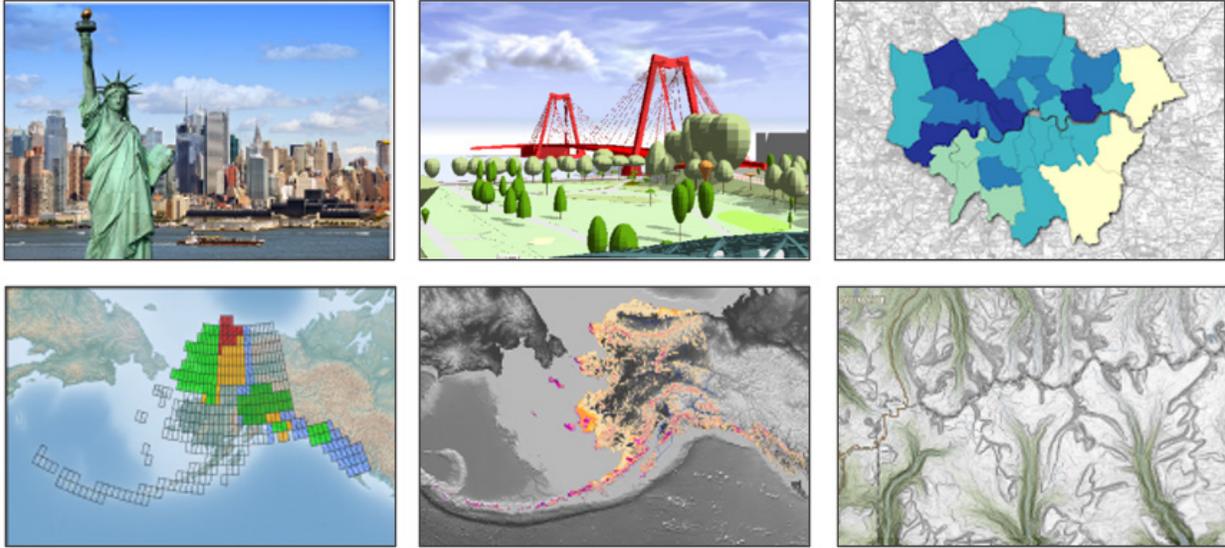
デフォルトの画像に必要な情報が含まれていない場合や、アイテム タイプにはデフォルトでは生成できない場合には、別の画像を作成および読み込むことができます。

次のサムネイルについて考えます。



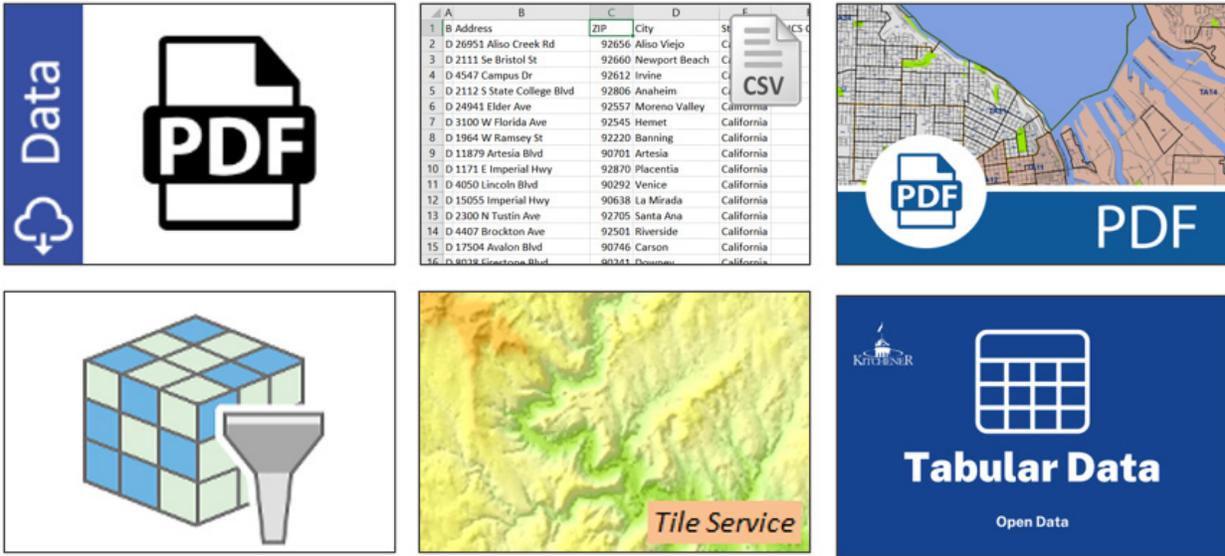
このようなサムネイルからは信頼性や専門性は感じられません。むしろ、不注意で急ぎの作業を示しており、データの品質について疑問が生じます。

上のサムネイルを以下のサムネイルと比較してみてください:



これらのサムネイルからは高度な専門性と信頼性が感じ取れます。さらに、どのようなコンテンツかが一目でわかるようになっています。

以下のサムネイルは、ユーザーが期待するコンテキストのタイプを示しています：



サムネイルは、組織のロゴなどのブランド、グラフィックスや配色、組織または提供するコンテンツについて説明するテキストを示すこともできます。



優れたサムネイルにするには、さらに多くの労力を必要としますが、自分のトップクラスのコンテンツを共有したい場合、投資の価値があります。組み込みのサムネイル エディターを使用したり、画像編集ソフトウェアを使用してカスタム サムネイルを作成したりできます。サムネイルは、さまざまな位置情報や視覚的ヒントを使用して、閲覧者がコンテンツの内容を予測する手助けとなります。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- マップを使った効果的なサムネイルを短時間で作成するには、サムネイル エディターを使用します。あるいは、任意のグラフィックプログラムを使用してカスタムグラフィックを作成し、アップロードします。
- カスタム グラフィックスを使用する場合、グラフィックスのサイズを 600 x 400 ピクセルに設定して .png ファイルとして保存することで最適な結果が得られます。
- ArcGIS Online ではいずれの表示サイズでも、文字や詳細情報のない、シンプルなサムネイルが最も効果的です。ただし、単語やグラフィックスからも、追加のコンテキストが得られます。

詳細

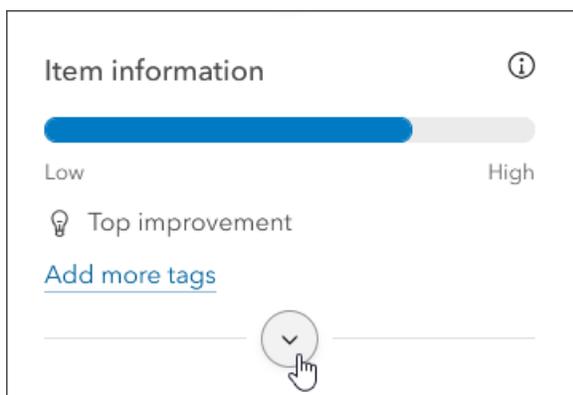
詳細については、次のリソースをご参照ください。

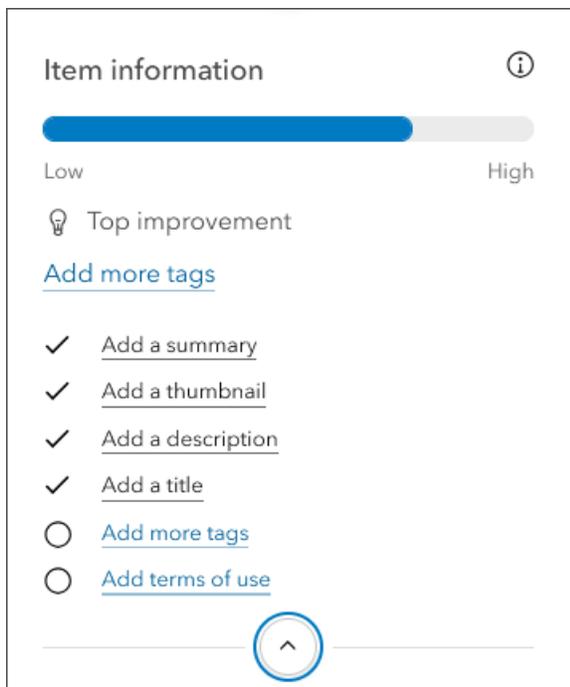
- [アイテムの詳細と設定の構成](#) (ヘルプ)
- [最適なサムネイルの提案](#) (ブログ)
- [サムネイルのスタイルとブランドの作成](#) (ブログ)

アイテムの詳細

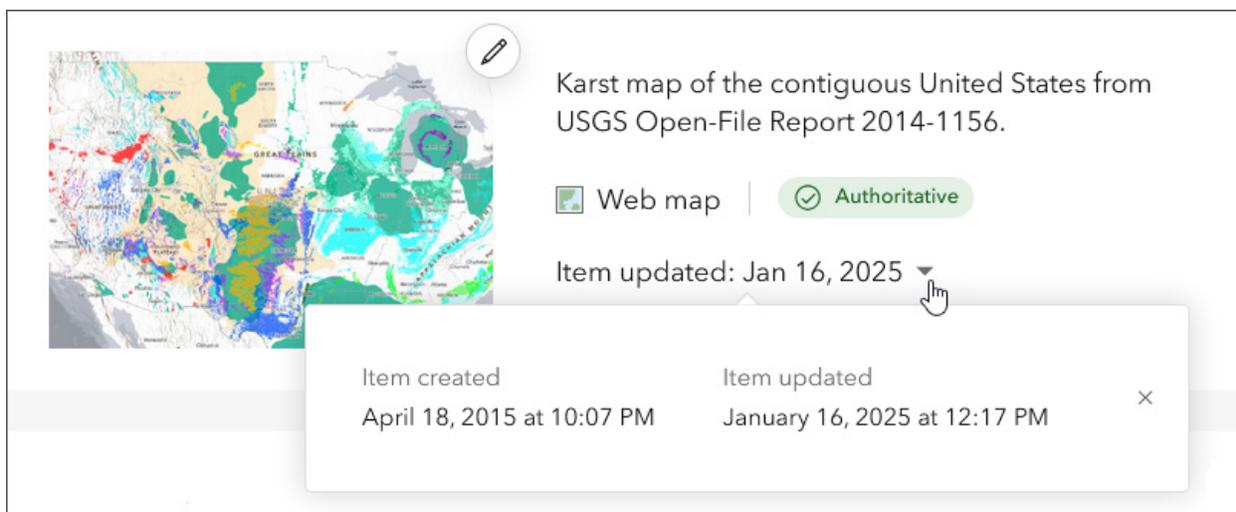
どのような仕事でも、事務作業が終わるまでは完了したことにはなりません。この場合、アイテムの文書化、つまり説明がこの作業に相当します。効果的なサムネイルであることは重要ですが、簡潔なサマリー、詳細な説明、タグ、カテゴリーなども同じくらいに重要です。アイテムを適切に文書化することで、組織、または組織外 (パブリックに共有されている場合) の他の人にとってより価値の高いものとなります。

アイテム ページの**アイテム情報**パネルには、アイテム ページを改善するためのヒントが表示されます。パネルを展開すると、改善についてのヒントが表示されます。





サマリーの下に表示される**アイテムの更新日**に注意してください。これはアイテムの説明が最後に更新された日付であり、必ずしもレイヤー、マップ、アプリが更新された日付ではありません。



そのため、アイテムの説明内のできるだけ目立つ場所に、データの更新日または更新間隔を追加することをおすすめします。この情報はアイテムのサマリーに含めることもできます。



Active Iowa DOT Winter Operations Vehicles

Feature layer | Authoritative

Data updated: Jul 8, 2025

▼ Description

This layer contains all active Iowa DOT Plow Trucks that are traveling more than 3 MPH. This data is updated every 2 minutes; 24 hours a day/7 days a week.

Real-Time Data Formats: [GeoJSON](#) | [JSON](#)

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- アイテムに説明的なタイトルを付けます。明らかでない限り、略語は使わないでください。
- 簡潔でわかりやすいサマリーを作成します。
- 関連するすべての詳細情報を説明に含めます。
- データの公開日と更新頻度に関する情報を追加します。
- 削除の防止を使用して、アイテムが誤って削除されないようにします。
- アイテムの必要なすべてのメタデータが含まれているプライベートテンプレートを作成し、文書化している新しいアイテムにこのテンプレートからコピーします。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [アイテムの表示と使用](#) (ヘルプ)
- [他のユーザーによる作業の検索、理解、使用を容易にする](#) (ブログ)
- [ArcGIS Online コンテンツの保護と管理](#) (ブログ)

第 8 章: ArcGIS Living Atlas of the World

マップやアプリなどを使用します。

ArcGIS Living Atlas of the World は、すぐに使える地理情報のコレクションであり、グローバルな GIS コミュニティーから提供されているマップやアプリなどのコンテンツが含まれています。コンテンツは厳選され、信頼済みであり、継続的に更新されています。コレクションは増え続け、アイテムの多くはライブであるため、リアルタイムまたはほぼリアルタイムで更新されます。

ArcGIS Living Atlas Web サイト

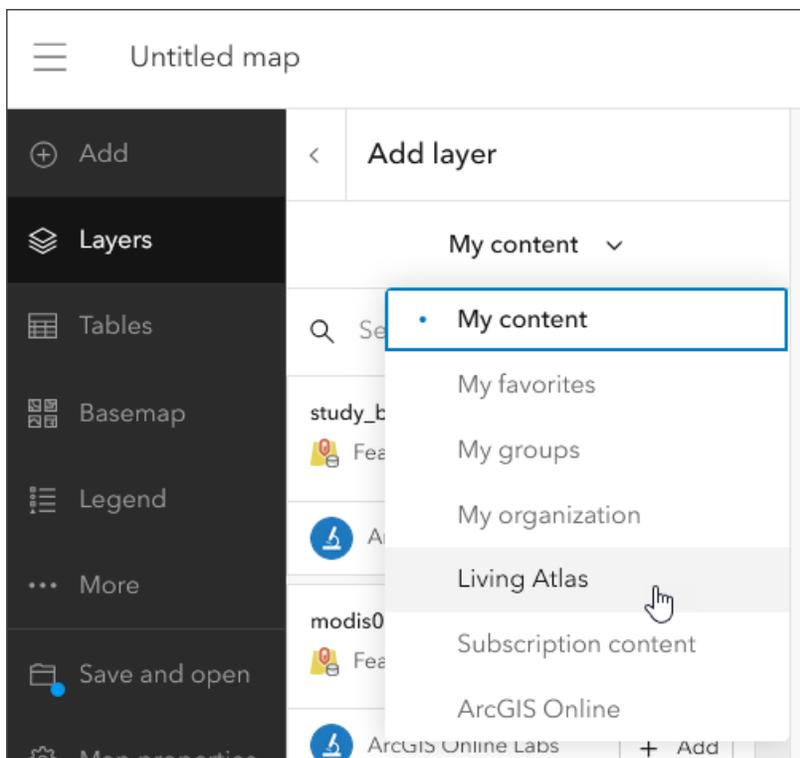
[ArcGIS Living Atlas Web](#) サイトは、最新情報の取得、学習、コンテンツ検索、コミュニティへの参加を行うためのワンストップ サイトです。参照タブでは、キーワードを使用してコンテンツを検索したり、タイプ、カテゴリー、地域、日付 (過去の月、年、または任意の日付) によってフィルターしたりすることができます。

このサイトでは、ArcGIS アカウントに直接サイン インできます。サイン インした後、検索ツールやフィルター ツールを使用してから、Map Viewer または ArcGIS Pro でただちにマップの作成を開始することができます。

Map Viewer 内の ArcGIS Living Atlas

Map Viewer では、Living Atlas コンテンツを直接、マップ作成ワークフローに取り込むことができます。マップに追加するコンテンツを検索するときに、レイヤーの追加ドロップダウン メニューから Living Atlas を選択できます。

さらに、フィルターを適用して Living Atlas 検索の地理範囲を絞り込んだり、キーワードまたは選択したカテゴリーと日付を使用してデータを見つけることもできます。



ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 信頼できるコンテンツを使用したマップの作成を開始する前に、ArcGIS Living Atlas Web サイトにサインインして作業を開始してください。
- 関心のあるアイテムをお気に入りとしてマークすることで、他のマップを作成するときに再度見つけることができます。
- [Community Maps Program](#) からコンテンツを ArcGIS Living Atlas に提供でき、さらに、ベースマップに修正を加えて、ベクターの詳細と画像を提供できることに注意してください。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください:

- [はじめての ArcGIS Living Atlas of the World](#) (チュートリアル)
- [ArcGIS Living Atlas of the World を使用した強力なマップの作成](#) (チュートリアル)

- [ArcGIS Living Atlas を最大限に活用する 10 の方法 \(ブログ\)](#)

ArcGIS Living Atlas アプリ

ArcGIS Living Atlas アプリを使用すると、ArcGIS Living Atlas コンテンツを視覚化、解析、表示することができます。次のアプリでは、マップを作成したり、データをダウンロードしたりできます。

- [World Imagery Wayback](#) では、ArcGIS Living Atlas にアーカイブされている衛星画像を表示して特定の日付の画像を取得することができます。このアプリは、画像を選択して経時変化を確認するときに便利です。
- [Historical Topo Map Explorer](#) では、USGS (U.S. Geological Survey) の 125 年にわたる地形図を閲覧できます。マップをダウンロードして共有したり、新しい Web マップとして開いたりすることができます。
- [Sentinel-2 Land Cover Explorer](#) は、年間 10 メートル解像度の土地利用および土地被覆データを使用します。これを Web アプリに表示して、動的な視覚的および統計学的な変更解析を行うことができます。このデータをダウンロードまたは使用して、マップを作成できます。
- [Sentinel-2 Explorer](#) を使用すると、Sentinel-2 マルチスペクトル画像を探索できます。この画像は、気候変動、都市化、干ばつ、山火事、森林破壊、その他の自然現象、災害、および人間の活動に関連付けられる土地利用と土地の変化を追跡して文書化するのに役立ちます。
- [Landsat Explorer](#) は、Landsat 画像を探索するためのアプリです。画像は毎日更新されます。このアプリを使用すると、Landsat のさまざまなバンドを活用して、地球の地質、植生、農業、都市をより深く探索できます。さらに、過去 40 年間の地表の変化を視覚化した Landsat アーカイブ全体にアクセスすることもできます。
- [Sentinel-1 Explorer](#) を使用すると、Sentinel-1 SAR (合成開口レーダー) 画像を探索できます。Sentinel-1 は、雲や煙に覆われている場所を透過して見ることができ、地表の直射日光照度に依存していないため、昼夜を問わずほとんどの気候条件で画像を収集します。このデータは、洪水のマッピングや、森林破壊、石油流出など、さまざまな土地および海運アプリケーションで役立ちます。
- [Esri Maps for Public Policy](#) は、コミュニティの重要な実情を表示する ArcGIS Living Atlas マップのコレクションです。このアプリを使用して、単一のマップを表示および共有したり、マップ コレクションを作成して他の人と共有したりすることができます。さらに、これら

のマップは、ArcGIS StoryMaps、ArcGIS Dashboards、ArcGIS Hub サイト、アプリなど、ArcGIS 全体でそのまま利用することができます。

- [SSURGO Downloader](#) を使用すると、SSURGO (Soil Survey Geographic Database) データセットから得られる 170 を超える属性が含まれている、すぐに使用可能なプロジェクトパッケージを取得できます。

Living Atlas Web サイトで[他のすぐに使用できるアプリを確認](#)します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [World Imagery Wayback を使用した画像の探索](#) (ブログ)
- [World Imagery Wayback を使用したカスタム ベースマップの作成](#) (ブログ)
- [Landsat Explorer を使用して Landsat 画像を探索することを学ぶ](#) (ブログ)
- [Sentinel-1 Explorer を使用して Sentinel-1 画像を探索することを学ぶ](#) (ブログ)
- [Sentinel-2 Explorer を使用して Sentinel-2 画像を探索することを学ぶ](#) (ブログ)
- [Esri Maps for Public Policy サイトでの 5 分](#) (ブログ)

第 9 章: データを情報に変換

データを基にしてレイヤーとマップを作成します。

いくつかの事柄について検討することで、生データをさらに有用で意味のある実用的な情報に変換することができます。

マップ

ArcGIS Online では、各自のノウハウと技術を活用して、地理学的知識を他の人々と共有して有益な情報を伝えるのに役立つ、表現豊かで意味のあるマップを作成します。マップは、情報のカートグラフィック表現であるだけでなく、閲覧者がマップをどのように視覚化して、使用し、操作するかという、マップに適用可能なツールも含めた、全体的な体験から構成されています。適切に作成されたマップでは、情報と目的を強化するツールを使用して、美しい見目でわかりやすく情報を提供することができます。

マップの作成はベースマップを選択することから始めます。これはレイヤーと競合するというよりはレイヤーを補うものです。Esri からはデフォルトのベースマップ ギャラリーが提供されていますが、組織のギャラリーをカスタマイズしてカスタム ベースマップを追加することができます。

次がレイヤーであり、意味がおのずとわかるように適切にスタイル設定します。スマート マッピングは、データに適したスタイルやデフォルト設定を見つけるためのデータ駆動型の手段です。効果とブレンドを使用すると、ビジュアルをさらに強化したり、フィーチャのサブセットに焦点を絞ったりすることができます。

レイヤーのポップアップを使用して、クリエイティブにわかりやすく意味のある情報を表示することもできます。最後に、マップをさまざまなアプリで使用できます。

マップの作成

マップを作成するには、Map Viewer を使用して 2D マップを作成するか、Scene Viewer を使用して 3D マップを作成します。マップを作成するには、組織内で再利用を目的に利用できるコンテ

ンツを使用することがあります。組織に信頼済みのマークが付いたコンテンツがある場合、それらのレイヤーをフィルターしたりお気に入りとしてマークしたりできます。

ArcGIS Living Atlas が作成のワークフローに組み込まれており、ここで公開されている信頼済みレイヤーを使用することができます。

マップの作成には、5つのステップがあります。

1. ベースマップを選択します。
2. レイヤーを追加します。
3. スタイルを変更し、必要に応じて、効果とブレンドを追加します。
4. ポップアップを構成します。
5. 保存および共有します。

完了したら、マップをアプリ、ダッシュボード、ストーリー、エクスペリエンスに提供することができます。

ベースマップ

ベースマップはマップの基礎であり、マップ レイヤーと競合するというよりはレイヤーを補うものです。組織には Esri から提供されているデフォルトのベースマップ セットが含まれていますが、カスタム ベースマップをコレクションに追加することができます。

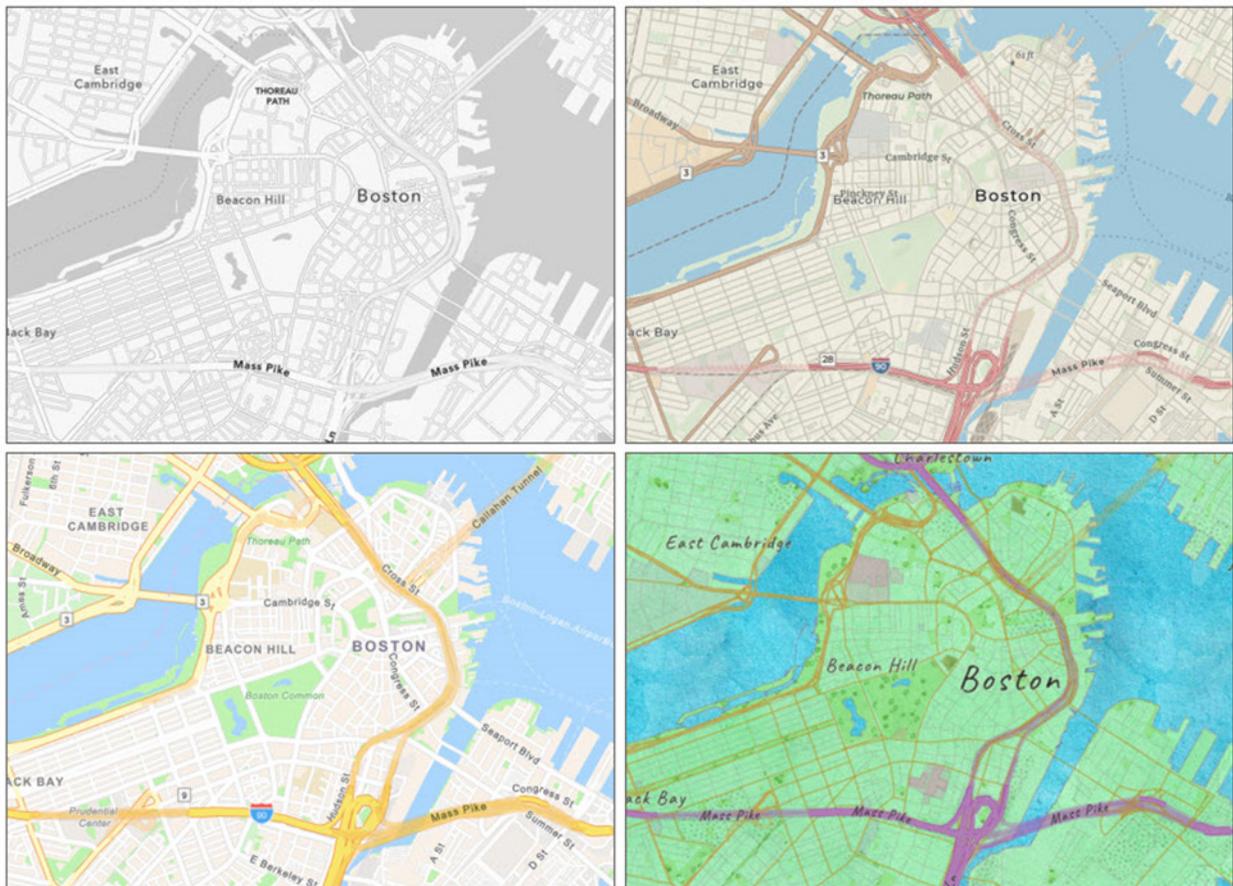
Esri ベクター ベースマップのスタイルをカスタマイズしたり、ベースマップのレイヤーを順序変更したり、カスタム ベースマップを作成して組織のギャラリーに追加したりすることができます。

Web マップ作成の投影法の規格は Web メルカトル球体補正 (WMAS) ですが、ArcGIS Living Atlas では、その他の投影法のベースマップも使用できます。さらに、地方都市、州、地域の規格を満たす別の投影法でベースマップを作成することができます。ベースマップの投影法によってマップの投影法が決まり、その他のコンテンツが必要に応じてベースマップ上にその場で投影されます。

ベクター ベースマップ

ベクター ベースマップは、組織のベースマップ ギャラリーのデフォルトです。Esri は同じベクター ベースを基に各種のフォントやスタイルを追加して、他とは一線を画すユニークな方法でベクター をレンダリングします。

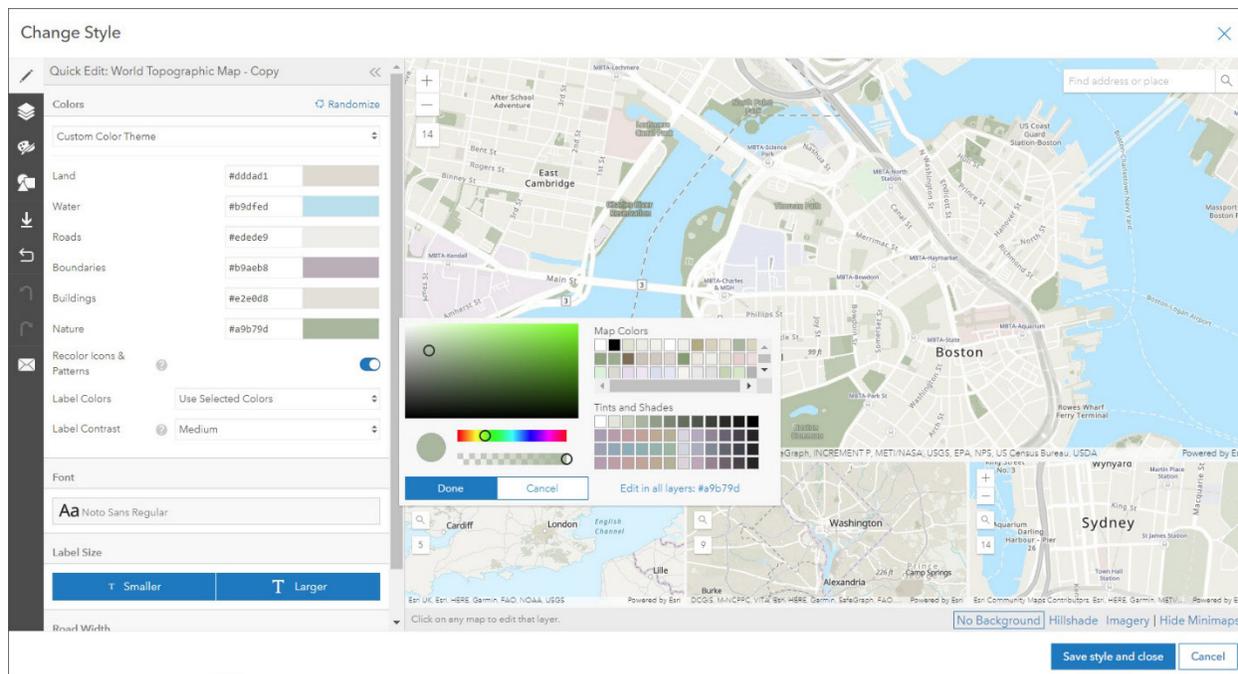
ベクター ベースマップには、ラスター タイル ベースマップに比べていくつかの利点があります。ラスター タイル レイヤーとは異なり、ベクター タイル レイヤーは表示デバイスの解像度に合わせ調整可能であり、回転やスタイルの変更が可能です。ベクター タイルは、ラスター タイルよりもファイルサイズが小さく、より速くマップを作成でき、より優れたパフォーマンスを発揮します。



ベクター タイル スタイル エディター

ベクター タイル レイヤーは、Map Viewer に、フィーチャのジオメトリー、ラベルとスプライト、およびレンダリングのスタイルを送信します。 [Vector Tile Style Editor \(VTSE\)](#) を使用して、スタイル

の編集や色の変更を行い、ブランドや構築しているアプリのタイプに合ったカスタム ベクター ベースマップ スタイルを作成することができます。



VTSE では、任意のベクター レイヤーのスタイルを編集することもできます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- Esri ベクター ベースマップを使用していることを確認し、古いマップでもベクター ベースマップが使用されていることを確認します。
- カスタム ギャラリーを使用して独自のベースマップを追加することで、ベースマップ ギャラリーを拡張します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ベースマップの切り替え \(ヘルプ\)](#)
- [独自のマップ スタイルの作成 \(ブログ\)](#)

- [ベクター タイル レイヤー スタイルの更新](#) (ヘルプ)
- [ArcGIS ベクター タイル スタイル エディターの概要](#) (ヘルプ)
- [カスタム ベースマップ スタイルを使用したマップのカスタマイズ](#) (チュートリアル)

レイヤー

マップを作成する際には、地理データをレイヤーとして操作します。ベースマップの上に描画されているレイヤーは、操作レイヤーと呼ばれます。レイヤーには、フィーチャ レイヤー、イメージ レイヤーなど、さまざまなタイプがあります。レイヤーのタイプに応じて、レイヤーのレンダリング方法を変更したり、そのスタイルを変更したり、効果やブレンドを使用したり、ポップアップを構成したり、フィーチャを編集したり、解析を実行したりすることができます。詳細については、「[レイヤー](#)」(ヘルプ)をご参照ください。

レイヤーのビジュアライゼーションはレイヤー内で構成されていますが、マップに追加した後は、デフォルトをオーバーライドしてマップに変更内容を保存することができます。**レイヤーの保存**を使用して、変更内容を含む新しいアイテムを作成することもできます。レイヤーは引き続き元のソースをポイントしますが、実行されたオーバーライドを適用します。

マップに追加するレイヤーのソースはシェープファイル、.csv ファイル、GeoJSON などさまざまであり、ローカル ファイルの場合と、Google Drive や Microsoft OneDrive などのクラウド ドライブに保存されている場合があります。

レイヤーは、組織、ArcGIS Online 上の別の組織、または ArcGIS Living Atlas から追加することができます。適切な権限がある場合、ArcGIS Pro または ArcGIS Online を使用して新しいレイヤーを公開することもできます。詳細については、「[ホスト フィーチャ レイヤーの公開](#)」(ヘルプ)をご参照ください。

フィーチャ レイヤー

.csv やシェープファイルなどのファイルからレイヤーを追加する場合、ホスト フィーチャ レイヤーを公開してマップに追加すると同時に、ファイルを保存できます。またはファイルを追加し、後でホスト フィーチャ レイヤーを公開することもできます。ホスト フィーチャ レイヤーは他のマップで使用できます。

ホスト フィーチャ レイヤー ビューを使用すると、異なるユーザーまたは目的に応じて権限を設定したり、属性でフィルターしたりできます。フィーチャ レイヤー ビューを作成すると、新しいレイヤー アイテムが**コンテンツ**に追加されます。この新しいレイヤーはソース レイヤー内のデータに対するビューであり、ソースのデータに対する編集内容がビューに反映されます。

ただし、ビューは個別のアイテムであるため、作成元のホスト フィーチャ レイヤー アイテムとは別に、ビューのアイテムのプロパティおよび設定を変更できます。たとえば、組織のメンバーにホスト フィーチャ レイヤーの編集を許可する一方、読み取り専用のフィーチャ レイヤー ビューを一般ユーザーに公開できます。

イメージレイヤー

イメージ レイヤーではスマート マッピング スタイルはサポートされていませんが、マルチスペクトル イメージ レイヤーまたはマルチテンポラル イメージ レイヤーを操作するさまざまな方法があります。

ArcGIS Living Atlas の多くのイメージ レイヤーでは、リアルタイムのサーバー側レンダラーがサポートされています。これらを見つけるには、**設定** (明るい背景の) ツールバーの**処理テンプレート**をクリックします。マルチテンポラル画像は**フィルター**を使用して日付によってフィルターすることができます。

以下の例は、ArcGIS Living Atlas で公開されている、オーストラリアの同じエリアの Sentinel-2 画像を示しています。1 つ目の画像は、デフォルトのレンダラーを使用してナチュラル カラーで表示されています。煙で詳細が見えづらくなっています。次の画像では、短波長赤外レンダラーを使用して煙が除去され、炎上中のエリアを確認できます。3 つ目の画像では、正規化燃焼率を使用して、焼失したエリアが濃い黒色で強調されています。



その他のレイヤー タイプ

他にも多くのレイヤー タイプがあり、それぞれが固有の機能とプロパティを備えています。その他のレイヤー タイプの詳細については、[Web レイヤーのタイプ](#) (ヘルプ) をご参照ください。

レイヤーの外観の調整

レイヤーをマップに追加するときに、レイヤーの外観を構成できます。スタイル、効果、ブレンド、透過率、縮尺依存性などを設定することによって、レイヤーを希望どおりの外観にします。見た目が魅力的で直観的な、表現豊かな情報表示を作成することを目標にしてください。

スマート マッピング

スマート マッピングでは、データ駆動型アプローチによってデータの最適な表現方法について決定できるため、魅力的な主題図を使用して探索し、理解し、意味を見出すことができます。たとえば、マップに表示する属性が整数の場合、ArcGIS Online ではサイズを使用して個数を示すことが提案されます。属性が文字列の場合、さまざまなカテゴリーのデータを表示するためのタイプ (一意のシンボル) が提案されます。

スマート マッピングでは、複数の関連する属性を、関連性マッピングや優位性マッピングなどを使用して 1 つのマップに表示することもできます。たとえば、同じタイプの属性を 2 つ選択した場合、優位性、関連性、またはサイズと色がスタイルとして提案されます。

美しく表現豊かなマップを作成するのに役立つ、数多くのデータ駆動型スマート マッピング スタイルが用意されています。さまざまなデータ タイプで利用できるスタイル オプションおよび各スタイルを使用して答えることができるいくつかの主な質問については、「[スタイルのクイック リファレンス](#)」をご参照ください。詳細については、「[スタイルの適用](#)」をご参照ください。

集約

多数のポイントがある場合、クラスタリングやビニングなどの集約機能を使用して、データをさらに意味のあるものにすることができます。

クラスターは、各クラスター内のフィーチャの数に基づいて比例を維持したままサイズ設定されたシンボルで表されます。詳細については、「[クラスタリングの構成](#)」をご参照ください。

ビンングを使用して、ビンと呼ばれる集計ポリゴンにフィーチャを集約することができます。各ビンはその境界内のすべてのフィーチャを表し、どのビンもサイズと面積が同じです。詳細については、「[ビンングの構成](#)」をご参照ください。

効果

効果を使用して、目を引くビジュアライゼーションをレイヤーに適用します。効果は、レイヤー内のすべてのフィーチャに適用することも、フィルターに基づいてフィーチャのサブセットに適用することもできます。レイヤー全体の効果とフィーチャ固有の効果の一覧については、「[効果](#)」をご参照ください。

各効果の各種設定を使用して、結果を微調整することができます。1つのレイヤーに複数の効果を適用することもできます。詳細については、「[効果の使用](#)」をご参照ください。

ブレンド

ブレンドは、マップで重なり合っているレイヤーがどのように見えるかを制御するための1つの手段です。たとえば、マップで地表の上に地質が重なっている場合、地質レイヤーの透過率を調整することで地表が見えるようにすることができます。ただし、透過率はレイヤー全体に均一に適用され、透過率が高すぎると地質が色褪せた表示になることがあります。

ブレンドモードを適用した場合、重なり合うレイヤーがどのように混ざり合うかをピクセル単位で制御することによって、外観を詳細にコントロールすることができます。各種ブレンドモードを使用して、たとえば、明るいピクセルだけ変更して暗いピクセルはそのままにしたり、色調ウォッシュや陰影を使用して色は変えるがテキストラベルはそのままにしたり、あるレイヤーから別のレイヤーにテキストチャーをブレンドしたりすることができます。

すべてのモードとその機能の一覧については、「[ブレンドモード](#)」をご参照ください。詳細については、「[ブレンドモードの使用](#)」をご参照ください。

例

前述の手法を効果的に適用した例が「[Esri Maps for Public Policy](#)」に掲載されています。関心のあるレイヤーを見つけて**表示**をクリックすると、マップが表示されます。レイヤーのタイトルをクリックしてアイテムの詳細を確認してから、Map Viewerでレイヤーを開いて、スタイル、効果、ブレンドなどの手法がどのように適用されているかを調べます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- どのような情報をマップに表示したいかを検討してください。マップの目的は何で、その情報を表示するために最も効果的な方法は何ですか？
- 試します。ArcGIS Online でマッピング スタイルが提案された場合でも、マップ作成者はスタイルや設定を自由に選択することができます。
- クリエイティブであるようにします。スタイル、効果、ブレンド モードを組み合わせることによって、素晴らしい結果を導くことができます。グループ レイヤーを使用して、ブレンドの適用先を絞り込みます。
- 気に入ったマップを見つけて、そのマップを分析してどのように作成されているかを調べます。
- 完了したら、**レイヤーの保存**をクリックすることで、変更内容をマップ内だけでなくレイヤーに保存して、他の人が使用できるようにします。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [Map Viewer の効果の基本操作](#) (YouTube)
- [Map Viewer の効果](#) (ブログ)
- [効果の使用](#) (ヘルプ)
- [レイヤー効果を使用した衛星画像ベースマップの強化](#) (ブログ)

- [効果とベクター ベースマップ](#) (ブログ)
- [集約、ビニング、クラスタリング](#) (ブログ)

レイヤーのポップアップ

あまりにも多くのマップで、ポップアップが未構成のままになっています。デフォルトのポップアップには、往々にして無意味なフィールドと値の単純なリストが含まれます。しかし、レイヤーのポップアップはマップの情報をフルに活用するために不可欠で重要な部分です。ポップアップによって、単調な属性のリストを、対象読者にとって直感的で魅力的な情報という意味のある表示へと変えることができます。

最低限、[属性を構成](#)する必要があります。意味のない属性 (FID など) を削除し、属性名を編集して全大文字を解除したり、ユーザーがわかりやすい名前に変更したりします。数値属性の形式も指定します。小数点以下の桁数を調整し、桁区切り記号が必要かどうかを決定します。

さらに詳しく説明すると、ポップアップはコンテンツのエレメント、つまりブロックを組み合わせることによって構成されています。このようなエレメントには、フィールド リスト、チャート、画像、テキスト、ArcGIS Arcade があります。レイヤーにテーブルが関連付けられている場合、関連テーブルのエレメントもポップアップを構成する際に使用できます。ポップアップには、フィーチャの添付ファイル、外部リソースへのリンク、ビデオ、[Arcade 式](#)も含めることができます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- ポップアップをどのように作成する場合でも、最初にフィールドを構成します。
- Arcade を使用して属性値のフォーマットを指定し、ダイナミックに色付けし、略称を正式名称にし、全大文字を解除します。
- 新しいレイヤーのポップアップを構成したら、**保存**をクリックして、マップ内だけでなくレイヤーに変更内容を保存します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ポップアップの表示](#) (ヘルプ)
- [ポップアップの構成](#) (ヘルプ)
- [ポップアップ: 基本](#) (ブログ)
- [ポップアップ: テキスト エLEMENTの基本](#) (ブログ)
- [ポップアップ: チャート ELEMENTの基本](#) (ブログ)
- [ポップアップ: Arcade の基本](#) (ブログ)

レイヤーの保存

コンテンツを作成する権限がある場合、一部のタイプのレイヤーを新しいアイテムとして**マイ コンテンツ**に保存できます。ホスト フィーチャの所有者は、スタイル、ポップアップ、その他の設定を元のレイヤーに保存できます。新しく公開されたレイヤーでは、デフォルトのポップアップ、スタイル、その他の設定が表示されます。

スタイルを設定してレイヤーを構成した後、**保存**をクリックして変更内容を保存します。これにより、構成がレイヤーとともに保存されて、他のユーザーが使用できる状態になります。マップ内のレイヤーに対して異なるプロパティを構成したい場合は、そのレイヤーをコピーします。

マップの作成者は必要に応じて保存済みレイヤーを変更できますが、精巧に作られたレイヤーは他のユーザーが使用可能な構成要素になります。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 構成されていないレイヤーを共有することは避けます。
- レイヤーは構成要素であると考え、それを念頭に置いて作成します。

- 新しい空のフィーチャ レイヤーは、既存のテンプレートから作成することも、カスタムテンプレートを定義することによって作成することも、既存のフィーチャ レイヤーから作成することもできます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [レイヤーのコピーと保存](#) (ヘルプ)
- [レイヤーの保存と複製](#) (ヘルプ)

第 10 章: ホスト フィーチャ レイヤーの操作

データを公開し、フィルターとテーブルを使用し、ビューを作成します。

組織内の公開者は、複数のソースからホスト フィーチャ レイヤーを公開することができます。フィルターとテーブルを使用し、ビューを作成して活用します。

レイヤーの公開

データをホスト フィーチャ レイヤーとして ArcGIS Online で直接公開できます。この操作を行うと、ArcGIS Online がレイヤーと、そのレイヤーを構成するデータをホストします。公開者の許可さえあれば、インターネット上のどこからでも Web、デスクトップ、モバイル アプリによるホスト レイヤーへのアクセスが可能です。Google Drive や Microsoft OneDrive などのクラウド ソースをはじめとする、さまざまなソースを使用して、ホスト フィーチャ レイヤーを公開できます。

ホスト フィーチャ レイヤーは公開されているレイヤーです。フィーチャ レイヤーは共有先のすべての人に提供され、複数のマップで使用することができます。

フィーチャ レイヤーでは、検索、スタイル設定 (スマート マッピング)、ポップアップ、編集がサポートされています。ホスト フィーチャ レイヤーは、ベースマップに重ねてデータを表示するのに最も適しています。レイヤーのスタイルを設定してポップアップを構成した後、**レイヤーの保存**をクリックして変更内容を保存します。自分または別のユーザーがそのレイヤーを次に使用する時には、レイヤーは構成済みになっています。詳細については、上の「[第 9 章: データを情報に変換](#)」をご参照ください。

ソースを再び追加することによって、ホスト フィーチャ レイヤーを更新または上書きすることができます。レイヤーに多数のフィーチャや複雑のラインまたはポリゴンが含まれている場合、レイヤーの最適化設定を使用してパフォーマンスを向上させることができます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- ホスト フィーチャ レイヤーを公開および構成した後、レイヤーに対して**保存**をクリックすることで、すぐに使える操作レイヤーを作成します。
- レイヤーが更新 (編集) され、フィーチャが初期範囲の外に追加された場合、空間インデックスを再構築することでパフォーマンスが向上します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ホスト フィーチャ レイヤーの公開 \(ヘルプ\)](#)
- [ホスト フィーチャ レイヤーの管理 \(ヘルプ\)](#)
- [複雑なラインおよびポリゴンの描画の最適化 \(ヘルプ\)](#)

編集可能なフィーチャ レイヤー

ホスト フィーチャ レイヤーの所有者または組織の管理者は、フィーチャ レイヤー データに対する編集アクセス権をどのユーザーに付与するかを決定することができます。アクセス権を制御するには、ホスト フィーチャ レイヤー ビュー、編集設定、共有プロパティを組み合わせて使用します。

フィーチャ レイヤーの所有者 (または管理者) は、誰が、どのフィーチャとその属性を、どのように編集できるかについて決定することができます。フィーチャ レイヤーに対する変更は、そのレイヤーが使用されている他のマップやアプリに自動的に表示されます。

フィーチャ レイヤーの公開者または管理者は、フィーチャ レイヤーが編集可能であるかどうかを決定し、編集レベルを設定します。編集レベルによって、フィーチャの追加、フィーチャの削除、フィーチャ属性のみの更新、フィーチャ ジオメトリの更新のいずれの操作が可能であるのかと、誰がこれらのタスクを実行できるのかを決定します。

編集可能なフィーチャ レイヤーがパブリックに共有されている場合、組織にサイン インしていなくても、レイヤーへのアクセス権があるユーザーなら誰でもレイヤーを編集することができます。これは**パブリック データ コレクション**の設定を使用するか、編集可能なフィーチャ レイヤーに対して読み取り専用ビューを作成することによって制御できます。

この設定が使用されている場合、パブリック データ コレクション バッジがアイテムに表示されます。

Transportation Needs Survey Public Data Collection Layer

This survey is your opportunity to share your observations and ideas! Where are improvements needed? What improvements would you recommend? How can transportation investments improve quality of life in our region?

 Feature layer | Item updated: Jun 16, 2025 |  Public data collection



詳細

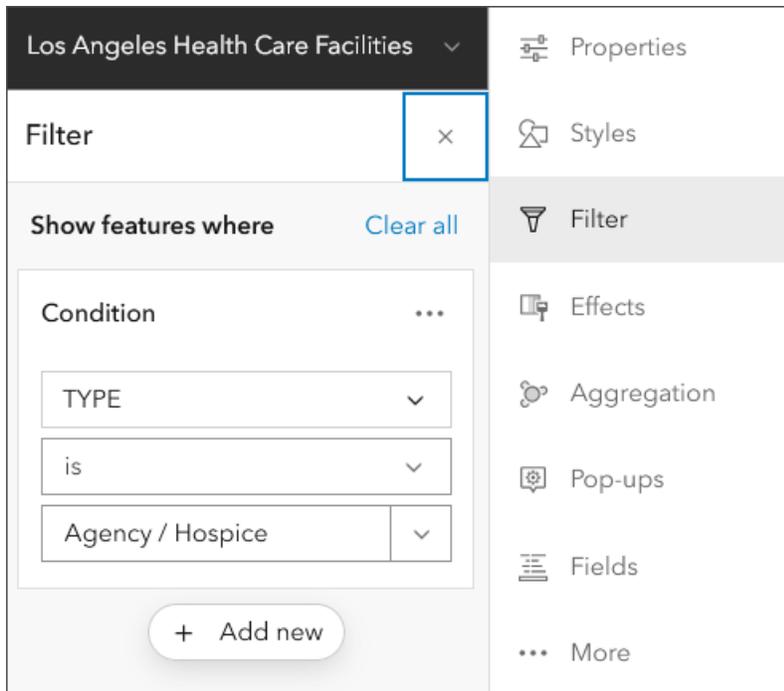
詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [データへのアクセス権とその編集](#) (ヘルプ)
- [ホスト フィーチャ レイヤーの編集の管理](#) (ヘルプ)

フィルター

フィルターは、マップ内にあるフィーチャ レイヤーの対象を絞ったビューを提供します。レイヤー内のフィーチャの表示を制限することで、重要なフィーチャを明確にできます。たとえば、犯罪レイヤーに対するフィルターを作成して、放火火災だけを表示することができます。複数の式を適用することもできます。たとえば、週末に発生した放火だけを表示するフィルターを作成できます。

設定 (明るい背景の) ツールバーの**フィルター** ボタンをクリックして**フィルター** ウィンドウを開き、フィルターを構築します。



ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- フィルターの数は最小限にします。多数のフィルターが必要な場合は、代わりにビューを使用することを検討してください。
- [対話形式の凡例 Instant Apps](#) を使用すると、シンボル表示で使用した属性に基づいてフィルターすることができます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [フィルターの適用](#) (ヘルプ)
- [式セットの使用](#) (ヘルプ)

ビュー

ビューを使用すると、元のレイヤーに基づいて、ライブリンクされた派生ホスト フィーチャ レイヤーを作成できます。ビューはさまざまな方法で共有、スタイル設定、編集することができます。元のフィーチャ レイヤーが更新されるとビューのフィーチャが自動的に更新されます。

ビューを使用して、編集やアクセス権を制御することができます。たとえば、組織のメンバーに対して元のフィーチャ レイヤーの編集を許可する一方、一般の人が閲覧できるように同じデータの読み取り専用ビューを作成することができます。ビューのスタイルを変えたり、表示される属性を制御したりすることもできます。

元のホスト フィーチャ レイヤーの所有者だけが、そのレイヤーからホスト フィーチャ レイヤービューを作成できます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- ビューでは、異なる対象ユーザーに合わせてフィーチャ レイヤーの表示とアクセスを提供および制御できます。
- ビューを使用することで、データ管理とアクセス権管理が軽減されます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ホスト フィーチャ レイヤー ビューの作成 \(ヘルプ\)](#)
- [ホスト フィーチャ レイヤー ビューとデータ アクセス \(ヘルプ\)](#)
- [ホスト フィーチャ レイヤー ビューの基本操作 \(ブログ\)](#)

テーブル

レイヤー内のフィーチャに関する情報を視覚化するには、Map Viewer のマップ下部、またはフィーチャレイヤーのアイテムページのデータタブで、インタラクティブなテーブルを表示します。データを表形式で表示すると、すばやく情報を分析し、意思決定を開始することができます。

データの並べ替え、サイズ変更、順序変更、非表示といった操作をしたり、特定の属性を選択してマップ上に表示したりできます。レイヤーを編集する権限を持っているユーザーは、属性値を編集または削除でき、関連する追加の写真やファイルを添付できます。

レイヤーを所有している場合は、フィールド値の計算やデータの付加などの一括編集操作を行えます。レイヤーの所有者は、フィールドの追加と削除を行って、レイヤーに格納されている情報の種類を変更することもできます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [テーブルの表示](#) (ヘルプ)
- [テーブルの編集](#) (ヘルプ)
- [データの管理](#) (チュートリアル)

第 11 章: 解析の実行

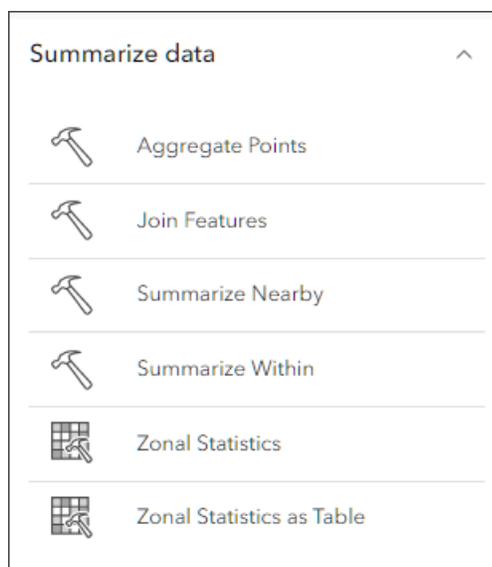
コンテンツに情報を付加して基本的な解析タスクを実行します。

ArcGIS Online の空間解析を多くのワークフローに適用して、パターンを見つけたり、傾向を評価したり、意思決定を下したりすることができます。解析ツールは、Map Viewer と Scene Viewer で使用できます。解析ツールを使用するには、適切な権限を持っている必要があります。

解析ツール

適切な権限を持つメンバーは、ベクターおよびラスター解析ツールを使用できます。解析ツールはいくつかのカテゴリに分類されています。

Map Viewer で、**設定** (明るい背景の) ツールバーの**解析**をクリックすると、解析ツールのウィンドウが開き、使用可能なカテゴリが表示されます。カテゴリを開くと、そのカテゴリにグループ化されているツールが表示されます。



Scene Viewer を使用して、**デザイナー** サイドバーの**解析**をクリックします。Map Viewer と同様に、ツールはカテゴリ別に整理されています。任意のカテゴリを開いて、使用可能なツールを表示します。

任意の解析ツールをクリックして構成ウィンドウを開きます。オプションを設定して、ツールを実行します。解析はバックグラウンドで実行されるため、解析が完了するまで作業を続行することができます。完了すると、新しい解析レイヤーがマップに表示されます。

完了後は、解析履歴が保存されます。履歴からツールを開いて、パラメーターまたはレイヤーを変えて解析を再実行できます。履歴はマップと一緒に保存されるため、ツールを後で再実行したり、マップを共有している他のユーザーが実行したりできます。

解析ツールを使用するとクレジットが消費されます。操作を実行するときに消費されるクレジット数については、**クレジットの推定**をクリックしてください。不要なクレジット消費を最小限に抑えるため、フィルターやマップ範囲を使用して、解析で使用されるフィーチャの数を減らすことによって、消費されるクレジットを減らします。

管理者は、クレジット使用制限ツールとクレジット割り当てツールを使用してメンバーに対してクレジット制限を設けることができます。さらに、管理者はレポート ツールを使用して、メンバーごとおよびタスクごとのクレジット消費を監視することができます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 解析ツールを実行する前にクレジット消費量を確認します。
- マップ範囲を使用して、解析で使用されるフィーチャを制限します。
- クレジット使用制限ツールとクレジット割り当てツールを使用してクレジット制限を設けます。
- 解析により新しいレイヤーが作成されるため、レイヤーを保存する場合はアイテムの詳細をすべて入力します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [解析の実行の基本操作](#) (ヘルプ)

- [解析の実行 \(ヘルプ\)](#)
- [解析ツールの使用 \(ヘルプ\)](#)
- [クレジットの構成 \(ヘルプ\)](#)
- [解析ツールによって消費されるクレジットを管理するためのヒント \(ブログ\)](#)
- [ArcGIS Online を使用した空間的問題の解決 \(チュートリアル\)](#)

第 12 章: マップとシーンからのアプリの作成

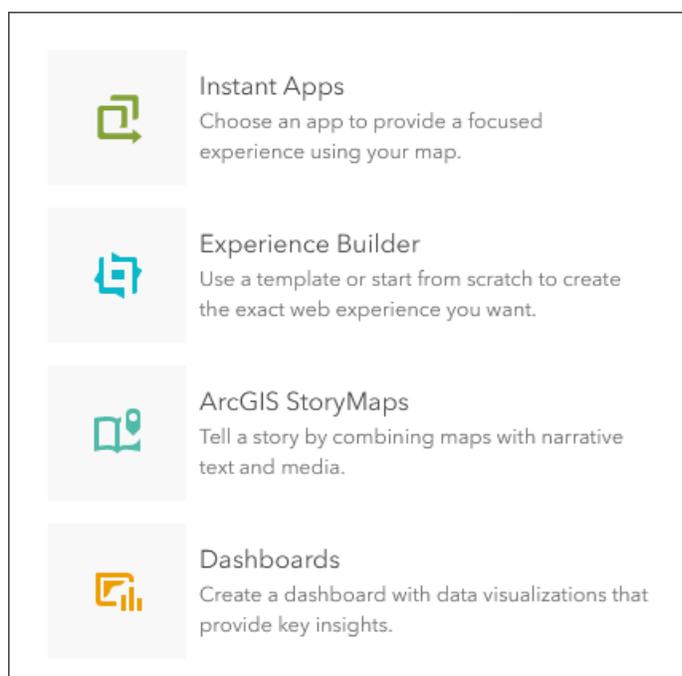
アプリ、ダッシュボード、ストーリーなどを使用します。

スプレッドシートで行った作業を洗練されたレポートとして上司やチームに提供するのと同じように、洗練された Web アプリの形式でマップとシーンを表示できます。Instant Apps やアプリビルダーを使用することで、対象の閲覧者に応じて的を絞った対話形式のマップを提供することができます。

アプリの作成

ArcGIS Instant Apps、ArcGIS Dashboards、ArcGIS StoryMaps、ArcGIS Experience Builder を使用して、マップ付きの Web アプリを作成できます。

これらのアプリは機能がそれぞれ異なります。Instant Apps のホーム ページからアプリ テンプレートを選択するか、Dashboards、ArcGIS StoryMaps、または Experience Builder を開きます。これらは Map Viewer と Scene Viewer またはアイテム ページから開くことができます。



ArcGIS Instant Apps

ArcGIS Instant Apps を使用すると、ArcGIS Online で対話形式の Web アプリを作成および共有することができます。目的や対象の閲覧者に基づいて、ギャラリーで各種アプリ テンプレートから選択します。Instant Apps はマップを対話型アプリに変換します。コーディングは必要ありません。Instant Apps には構成を迅速化する高速セットアップ オプションが備わっていますが、必要に応じて、さらに詳細な完全セットアップ オプションに切り替えることができます。

Instant Apps はグループベースのコンテンツにも使用できます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- ギャラリー内のアプリ カードにあるオプションの 1 つである**プレビュー**を使用して、アプリの外観やマップとの連携を確認します。
- いくつかの構成可能なアプリを試して、どのアプリが自分のマップに最も効果的であるかを調べ、閲覧者がどのように使用するかをイメージします。
- ギャラリーで **マイ アプリ** を使用して既存のアプリをコピーし、新しいマップを挿入して、既存の構成を使用した派生アプリを簡単に作成することができます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [マップからのアプリの作成](#) (ヘルプ)
- [グループからのアプリの作成](#) (ヘルプ)
- [ArcGIS Instant Apps](#) (ヘルプ)

ArcGIS Dashboards

ダッシュボードは地理情報とデータのビューで、イベントの監視、意思決定、他のユーザーへの通知、傾向の確認を行うことができます。ダッシュボードは、1つの画面上で、連携して機能する複数のビジュアライゼーションを表示します。ダッシュボードは、データを包括的に表示し、一目見ただけで決定を行うための重要な知見を提供します。

ダッシュボードを作成するには、エレメントを選択し、ダッシュボードのキャンバス上に配置します。設定を使用してエレメントを構成し、アクションを使用してエレメント同士をリンクします。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- ダッシュボードが主にモバイル デバイスで使用されるのか、ブラウザーで使用されるのかを検討し、それに応じて設計します。
- 無関係な情報は省略します。
- 簡潔なレイアウトにします。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ダッシュボードとは](#) (ヘルプ)
- [ダッシュボードの作成](#) (ヘルプ)
- [ArcGIS Dashboards を使用して、はじめてのダッシュボードを作成する](#) (ArcGIS ブログ)
- [ダッシュボード モバイル ビュー](#) (ヘルプ)

ArcGIS StoryMaps

ArcGIS StoryMaps では、マップやメディアを使用して、情報やインスピレーションを与えるストーリーを作成することができます。ArcGIS StoryMaps では単一のビルダーが使用されており、プロッ

クを選択して、テキスト、メディア、マップ、アプリをストーリーに取り込みます。ArcGIS Web マップをストーリーに追加したり、ストーリー ビルダーを終了することなくエクスプレス マップを作成したりすることができます。

ArcGIS StoryMaps コレクションを使用することで、ストーリーを速やかにグループ化し、移動可能なひとまとまりのセットとして共有または表示することができます。コレクションはArcGIS アイテムのグループ化にも使用できるため、その他のタイプのコンテンツを整理および表示するときにも大いに役立ちます。

ArcGIS StoryMaps のブリーフィングを使用すると、スライドベースの環境を使用して、プレゼンテーションスタイルのストーリーを作成できます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- **デザイン** パネルを使用してさまざまなテーマを試したり、組織のブランドカラーに合わせてテーマを作成したりします。ロゴをアップロードすることもできます。
- ストーリーのサブタイトルが自動的にストーリーのアイテム詳細ページのサマリーになります。ストーリーがソーシャル メディアで共有されたときにも、このテキストが表示されます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [ArcGIS StoryMaps とは](#) (ヘルプ)
- [初めてのコレクションの作成](#) (ヘルプ)
- [ArcGIS StoryMaps の概要](#) (Web サイト)
- [ArcGIS StoryMaps のリソース](#) (Web サイト)
- [ArcGIS StoryMaps の基本操作](#) (チュートリアル)
- [最初のブリーフィングの作成と公開](#) (ヘルプ)

ArcGIS Experience Builder

ArcGIS Experience Builder を使用すると、コードを記述することなく、モダンな Web アプリや Web ページを構築することができます。最初から作成するか、カスタマイズ可能なテンプレートの広範なライブラリーから選択できます。ドラッグ アンド ドロップで構成できるウィジェットを使用して、高度な機能を追加できます。Experience Builder の各種レイアウト オプションを使用して、あらゆる用途に対応する Web エクスペリエンスを構築できます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- エクスペリエンスの構築に取り掛かる前に、さまざまなテンプレートを試してみます。
- さまざまなデバイスに合わせてエクスペリエンスをカスタマイズできます。
- 高速モードを使用すると、簡単にエクスペリエンスを構築できます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [はじめての ArcGIS Experience Builder: 折りたたみ可能テンプレート](#) (ブログ)
- [はじめての ArcGIS Experience Builder: 2D マップと 3D マップの同期](#) (ブログ)
- [はじめての ArcGIS Experience Builder - ギャラリー テンプレート](#) (ブログ)
- [ArcGIS Experience Builder: 高速モードの概要](#) (ブログ)
- [ArcGIS Experience Builder を試す](#) (チュートリアル)

コレクション用アプリ

グループは通常、特定の対象地域に関連するマップ、アプリ、その他のアイテムのコレクションです。アイテムを整理するグループを作成できます。

グループベースのギャラリー アプリは構成可能なアプリであり、グループのコンテンツを表示および操作できます。

ArcGIS StoryMaps コレクション、ArcGIS Hub サイト、ArcGIS Experience Builder ギャラリーなどの他のアプリを使用して、コレクションを表示することもできます。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [グループからのアプリの作成 \(ヘルプ\)](#)
- [初めてのコレクションの作成 \(ヘルプ\)](#)
- [グループからギャラリー アプリへ \(ブログ\)](#)

第 13 章: 前進を継続

アプリとツールが組織の発展に役立ちます。

ArcGIS Online の一連の管理ツールとレポート ツールを使用して、組織とそのメンバーを効率的に管理することができます。[ArcGIS Online Health Dashboard](#) には、ArcGIS Online システム全体のステータスに関する情報が表示されます。情報ごとに RSS フィード サブスクリプションが提供され、変化が生じた場合に通知を受けることができます。

管理ツール

管理者は、ArcGIS Online 組織の管理ツールを使用して、メンバーの招待と管理、ライセンス、ユーザー タイプ、ユーザー ロールの管理を行うことができます。メンバーのコンテンツを表示したり他のメンバーに転送したりすることもできます。

さらに、組織のステータスを表示して、クレジット消費量、コンテンツのタイプ、共有サマリー、メンバー アクティビティ、グループ アクティビティを確認することができます。

レポートを作成し、後で再び実行するために保存することもできます。レポートの結果を後で参照するために保存できます。

ヒントとベストプラクティス

以下の推奨事項に留意してください:

- 組織とメンバーのアクティビティの監視を定期的に行います。
- 監視目標を達成するのに役立つレポートを作成します。

詳細

詳細については、次のリソースをご参照ください。

- [メンバーの管理](#) (ヘルプ)

- [ステータスの表示とレポート \(ヘルプ\)](#)
- [組織管理のベストプラクティス \(ヘルプ\)](#)
- [ArcGIS Online のメンバーを管理する場合の時間節約のヒント \(ArcGIS ブログ\)](#)

ArcGIS Notebook

ArcGIS Notebooks は通常は解析や機械学習タスクに使用されますが、ArcGIS API for Python のコンテンツ管理ツールおよび GIS 管理ツールを使用して日常的なワークフローやタスクを自動化することもできます。

たとえば、管理者は Notebooks を実行して、アイテムをクリーンアップし、壊れたリンクやセキュリティ保護されていない URL について Web マップの作成者に通知し、非アクティブ ユーザーを削除して、クレジットの管理と割り当てを行うことができます。

[サンプル ノートブック ギャラリー](#)には管理ワークフローをサポートするスクリプトが含まれており、各自のニーズに合わせてこれらのサンプル ノートブックに変更を加えることができます。組織内の管理作業を自動化するノートブックを作成することもできます。

ArcGIS Notebooks は Standard、Advanced、Advanced with GPU の 3 つのバージョンで提供されています。Standard には ArcGIS API for Python およびオープンソース Python ライブラリーが含まれており、管理タスク、データ エンジニアリング、簡単な解析に最適です。

ArcGIS Online Security Advisor

[ArcGIS Online Security Advisor](#) は、サイトのセキュリティとコンプライアンスに関する潜在的な問題を監視して報告する機能を提供します。これはセキュリティ、プライバシー、コンプライアンスに関する情報のリソースである [ArcGIS Trust Center](#) にあります。

ArcGIS Marketplace

[ArcGIS Marketplace](#) には、組織の前進を継続するのに役立つデータ、アプリ、ユーティリティーがあります。これらの一部はサブスクリプション ベースですが、無料のツールも多数用意されています。たとえば、[GeoJobe](#) では組織の管理に役立つ無料のツールが提供されています。

ArcGIS アシスタント

[ArcGIS アシスタント](#)は、アイテムメンテナンスをはじめとする特定の管理タスクと職務を効率化します。ArcGIS アシスタントは Esri ソリューション エンジニアによって作成され、ArcGIS Online と ArcGIS Enterprise を高度に理解しているユーザーを対象としています。ArcGIS Online Assistant はサポート対象ではありませんが、幅広く利用されています。

ArcGIS Online Assistant では次の作業を行えます。

- コンテンツを検索してある組織から別の組織にコピーする。
- アイテムの基になっている JSON を表示して編集する。
- タグを表示する。
- Web マップや登録済みアプリケーションでサービス URL を更新および変更する。
- アイテムの統計情報を表示する

ArcGIS Online Assistant には、[GitHub](#) でもアクセスできます。詳細については、[ArcGIS アシスタント ユーザー ガイド](#)をご参照ください。

新しい情報の取得

変化、新製品、新機能についての情報を常に収集していることが組織の円滑な運用を維持する鍵となります。ArcGIS Online は急速に進歩しているため、有益なリソースから常に最新の情報を収集するようにしてください。

次のようなリソースが情報収集に役立ちます。

- [ArcGIS ブログ](#)
- [ArcGIS Online Esri コミュニティー](#)
- [ArcGIS Online ニュース](#)
- [ArcWatch](#) および [ArcUser](#) マガジン

- [Esri イベント](#)
- [Esri に連絡](#)
- [ArcGIS Online サポート情報](#)
- [ArcGIS Living Atlas](#)